

# 医療用医薬品 再評価結果のご案内〈No.19〉 付使用上の注意事項

発行：日本製薬団体連合会／編集：薬効委員会

〒103・東京都中央区日本橋本町2の9(東京薬業会館内)TEL03(270)0581, 0582

放射 性 医 薬 品 (その1) (単 味 剤)  
X 線 造 影 剤 (その1) (単味剤, 配合剤)  
外 皮 用 剤 (その5) (単 味 剤)  
循 環 器 官 用 剤 (その11) (単 味 剤)  
消 化 器 官 用 剤 (その6) (単 味 剤)  
血 液 用 剤 (その4) (配 合 剤)  
ビ タ ミ ン 等 代 謝 性 製 剤 (その5) (単 味 剤)

昭 和 57 年 1 月

日 本 製 薬 団 体 連 合 会

---

# 医療用医薬品再評価結果のご案内

---

<No. 19>

---

## ご 挨拶

謹 啓

時下、先生には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、ご高承のこととは存じますが、医療用医薬品の有効性と安全性の立場から再評価が行われております。

今回、第19次として、放射線医薬品、X線造影剤、外皮用剤、循環器官用剤、消化器官用剤、血液用剤、ビタミン等代謝性製剤の一部について再評価結果が昭和57年1月8日付薬発第9号薬務局長名で通知されました。

日本製薬団体連合会では、薬効委員会の再評価共同作業の申し合せにより、各社が協力して今回再評価結果が通知されました医療用医薬品の効能・効果、用法・用量及び使用上の注意をまとめご案内<No. 19>を作成して、お届けすることに致しました。

使用上の注意につきましては、昭和57年1月8日付薬発第13号薬務局長名で通知されたものを記載し、ご参考に供しました。また、薬務局長名で通知されない配合剤の使用上の注意等は、自主的に申し合せましたものを掲載致しました。

各メーカーにおきましては、再評価結果に基づく添付文書を可及的速やかに改訂の上お届けするよう努力しておりますが、とりあえずのご案内<No. 19>をご高覧の上ご利用いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

昭和57年1月

日本製薬団体連合会

〒103 東京都中央区日本橋本町2の9  
TEL 03 (270) 0581, 0582.

放射性医薬品(その1) (単味剤)  
X線造影剤(その1) (単味剤, 配合剤)  
外皮用剤(その5) (単味剤)  
循環器官用剤(その11) (単味剤)  
消化器官用剤(その6) (単味剤)  
血液用剤(その4) (配合剤)  
ビタミン等代謝性製剤(その5) (単味剤)

◇…目 次…◇

**放射性医薬品（その1）**

ヨウ化ナトリウム ( $^{131}\text{I}$ )（診断用）……………	(9)
ヨウ化ナトリウム ( $^{131}\text{I}$ )（治療用）……………	(9)
ヨウ化人血清アルブミン ( $^{131}\text{I}$ )……………	(10)
ヨウ化ヒプルス酸ナトリウム ( $^{131}\text{I}$ )……………	(11)
金コロイド ( $^{198}\text{Au}$ )（診断用）……………	(11)
クロム酸ナトリウム ( $^{51}\text{Cr}$ )……………	(12)

**X線造影剤（その1）**

(1) 医療用単味剤

アミドトリゾ酸メグルミン……………	(13)
イオタラム酸ナトリウム……………	(14)
イオタラム酸メグルミン……………	(16)
ヨードミドメグルミン……………	(17)
イオパノ酸……………	(18)
アジピオドンメグルミン……………	(19)
イオボダートナトリウム……………	(21)
イオベンザム酸……………	(22)
イオフュンジラート……………	(23)
ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル……………	(23)
プロピリオドン……………	(24)
硫酸バリウム……………	(25)

(2) 医療用配合剤

ヨードミド・メグルミン・水酸化ナトリウム配合剤 （ヨードミドナトリウムメグルミン注射液）……………	(27)
アミドトリゾ酸・水酸化ナトリウム・メグルミン配合剤（1） （アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン注射液）……………	(28)
アミドトリゾ酸・水酸化ナトリウム・メグルミン配合剤（2）	

(アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン注射液) .....	(29)
アミドトリゾ酸・水酸化ナトリウム・メグルミン配合剤(3)	
(アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン注射液) .....	(31)
アミドトリゾ酸・水酸化ナトリウム・メグルミン配合剤(4) .....	(32)
アミドトリゾ酸メグルミン・アミドトリゾ酸ナトリウム配合剤(1) .....	(33)
アミドトリゾ酸メグルミン・アミドトリゾ酸ナトリウム配合剤(2) .....	(34)
イオピドール・イオピドン配合剤 .....	(36)
炭酸水素ナトリウム・フマル酸一ナトリウム配合剤 .....	(36)
炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤(1) .....	(37)
炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤(2) .....	(37)
炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤(3) .....	(37)
炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤(4) .....	(37)
炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤(5) .....	(37)
炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤(6) .....	(38)
炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤(7) .....	(38)

#### 外皮用剤(その5)

カンフル .....	(39)
イクタモール .....	(39)
カンタリス .....	(40)
トウガラシチンキ .....	(40)
サリチル酸メチル .....	(40)

#### 循環器官用剤(その11)

カフェイン .....	(42)
安息香酸ナトリウムカフェイン .....	(42)
アセタゾラミド .....	(43)

#### 消化器官用剤(その6)

酸化マグネシウム .....	(47)
水酸化アルミニウムゲル .....	(47)
乾燥酵母 .....	(48)
アカメガシワエキス .....	(48)

アルジオキサ	(49)
L-グルタミン	(49)
ウロガストロン	(50)
塩酸ヒスチジン	(50)
銅クロロフィリンナトリウム	(50)
ジメチルポリシロキサン	(51)
D-ソルビトール	(51)
<b>血液用剤（その4）</b>	
フマル酸第一鉄・葉酸・シアノコバラミン配合剤	(52)
フマル酸第一鉄・ジオクテルソジウムスルホサクシネート配合剤（1）	(52)
フマル酸第一鉄・ジオクテルソジウムスルホサクシネート配合剤（2）	(52)
フマル酸第一鉄・チアミンセチル硫酸塩・リボフラビン・ニコチン酸アミド・ アスコルビン酸配合剤	(52)
<b>ビタミン等代謝性製剤（その5）</b>	
ジヒドロタキステロール	(53)
正誤等のご連絡	(54)
本文掲載以外の該当品目	(55)
再評価の結果、有用性を示す根拠がないものと判定された成分名・処方名・販売名 （外皮用剤，消化器官用剤，血液用剤）	(57)
薬効群別公示一覧表	(59)

◇ 本ご案内ご利用頂くに当って ◇

1. 本ご案内本文に記載の**販売名（会社名）**は、日本製薬団体連合会薬効委員会の再評価共同作業の申し合わせにより再評価の申請を行ない、今回の公示の時点で製造（輸入）・販売を行なっているものを掲載してあります。カッコ内の会社名の次に記載してあります会社名（例：〇〇〇製薬—△△薬品）は販売を行なっている会社です。
2. 公示対象品目の販売名（会社名）で、本文に掲載以外の品目は末尾に一括して掲載致しました。
3. 「有効と判定する根拠がないもの」と判定された適応（効能・効果）は、再評価に申請された用語をそのまま記載してありますので、効能・効果の表現と必ずしも一致しておりません。
4. \*は再評価に際し付された意見です。
5. ◎のついた使用上の注意は昭和57年1月8日付薬発第13号業務局長名にて通知されたものです。
6. なお、使用上の注意における副作用の発現頻度は、「まれに」0.1%未満、「ときに」0.1～5%未満、副詞なしは5%以上又は頻度不明であります。

## ◇…放射性医薬品…◇

### ヨウ化ナトリウム (<sup>131</sup>I) (診断用)

#### 効能・効果

甲状腺放射性ヨウ素摂取率測定による甲状腺機能検査、シンチグラムによる甲状腺疾患の診断及び甲状腺癌転移巣の発見

#### 用法・用量

##### 1. 甲状腺放射性ヨウ素摂取率の測定

本品 5~50 $\mu$ Ci を経口投与し、一定時間後に甲状腺部の放射能を測定する。

##### 2. シンチグラム

本品 20~100 $\mu$ Ci を経口投与し、一定時間後にシンチグラムを得る。甲状腺癌転移巣のシンチグラムを得る場合は 0.5~10mCi を経口投与する。

#### ◎使用上の注意

##### (1) 一般的注意

1) 本剤の使用は、本剤より被ばく線量の少ない薬剤が入手し得ない場合に限る。

2) 患者への被ばく線量を軽減させるため、投与量は最少限度にとどめること。

##### (2) 妊婦・授乳婦への投与

胎児に対する被ばくの危険性が考えられるので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。

授乳中の婦人に投与したときは、授乳を禁止すること。

##### (3) 18才未満の者への投与

診断上の有益性が被ばくによる不利益を上まわると診断される場合にのみ投与すること。

##### (4) 乳・幼児への投与

被ばくによる不利益が診断上の有益性を上まわると考えられるので、乳・幼児には投与しないことが望ましい。

##### (5) 適用上の注意

ヨウ素含量の多い薬剤(ヨード造影剤、ルゴール液、ヨードチンキ等)及び飲食物(コンブ、ワカメ等)、甲状腺ホルモン、抗甲状腺剤は検査に影響を与えるので、本剤投与前少なくとも1週間は原則として禁止するこ

と。

#### 販売名(会社名)

放射性ヨウ化ナトリウムカプセル(診断用)(第一 R.I.C.), ヨウ化ナトリウム・I-131・カプセル(ミドリ十字), ラジオカップ(ダイナボット)

### ヨウ化ナトリウム (<sup>131</sup>I) (治療用)

#### 効能・効果

甲状腺機能亢進症の治療、甲状腺癌及び転移巣の治療

#### 用法・用量

##### 1. バセドー病の治療

投与量は(1) 甲状腺<sup>131</sup>I摂取率、(2) 推定甲状腺重量、(3) 有効半減期等をもとにして、適切な量(期待照射線量3,000~7,000rad)を算定し、経口投与する。

##### 2. 中毒性結節性甲状腺腫の治療

結節の大きさ、機能の程度、症状等により適切な量を経口投与する。

##### 3. 甲状腺癌及び転移巣の治療

本品を1回あたり30~200mCi経口投与する。一定の期間後症状等を観察し、適宜再投与する。

#### ◎使用上の注意

##### (1) 一般的注意

1) 患者への被ばく線量を軽減させるため、投与量は最少限度にとどめること。

2) 治療後、甲状腺機能低下症があらわれることが多いので、その旨を患者に説明しておくことが望ましい。

##### (2) 副作用

1) **症状変化** 重症の甲状腺機能亢進症患者では、過性の臨床症状の悪化、クリーゼの誘発等があらわれることがあるので、本剤投与前又は後に抗甲状腺剤治療を行うこと。また、晩発性の副作用として甲状腺機能低下症がみられることが多い。

2) **血液** 急性症状として、白血球減少、ヘモグロビン減少、血小板減少等の血液異常があらわれることがあ

る。

### (3) 妊婦・授乳婦等への投与

胎児に対する被ばくの危険性が考えられるので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。

授乳中の婦人に投与したときは、授乳を禁止すること。

### (4) 18才未満の者への投与

診断上の有益性が被ばくによる不利益を上まわると判断される場合のみ投与すること。

### (5) 適用上の注意

1) ヨウ素含量の多い薬剤(ヨード造影剤、ルゴール液、ヨードチンキ等)及び飲食物(コンブ、ワカメ等)、甲状腺ホルモン、抗甲状腺剤は治療に影響を与えるので、本剤投与前後の3日～1週間は禁止すること。

2) 放射線核種を用いて治療した患者の帰宅については、ICRP Publication 25の163～168項において勧告がなされている。

### (6) その他

晩発生の副作用として、甲状腺癌、白血病、遺伝因子に対する影響が考えられているが、白血病、遺伝因子については現在のところ統計学的に有意な報告はみられない。しかし、甲状腺癌については、若年者に対する<sup>131</sup>I甲状腺治療は成人に対してより甲状腺癌発生の可能性が高いことが指摘されている。

### 販売名(会社名)

テリオダイド(ダイナポット)、放射性ヨウ化ナトリウムカプセル(治療用)(第一R.I.C.)

### ヨウ化人血清アルブミン(<sup>131</sup>I)

### 効能・効果

循環血液量の測定、循環血漿量の測定、血液循環時間の測定、心拍出量の測定

### 用法・用量

#### 1. 循環血漿量の測定

本品5～20μCiを静注し、10～15分後採血し血漿中の放射能を計測する。注射全放射能と10～15分後血漿中放射能から希釈法の原理に従って次式により循環血漿量を

算出する。

$$\begin{aligned} & \text{循環血漿量 (ml)} \\ &= \frac{\text{注射液を希釈したものの1 mlあたりの計数値}}{\text{注射後血漿1 mlあたりの計数値}} \\ & \times \text{希釈倍数} \times \text{注射量 (ml)} \end{aligned}$$

#### 2. 循環血液量の測定

循環血漿量を求めたのち、ヘマトクリット値(Ht)から次式により算出する。

$$\text{循環血液量 (ml)} = \frac{\text{循環血漿量}}{100 - \text{Ht} (\%)} \times 100$$

#### 3. 血液循環時間の測定

本品5～50μCiを可及的速やかに注射し、ガンマカメラ又は指向性シンチレーション検出器を測定しようとする部位にあて、放射能の出現までに要する時間を測定する。

#### 4. 心拍出量の測定

本品5～50μCi静注後、ガンマカメラ又は指向性シンチレーション検出器を心臓部にあて、放射能を連続記録する。注射5分後に採血し、体外計数値を校正する。

得られた希釈曲線をもとにして算出する。

$$\text{心拍出量 (ml/分)} =$$

$$\frac{(\text{注入した総計数値}) \times 60}{(\text{血液中の平均計数値}) \times (\text{第一次循環に要する時間(秒)})}$$

### ◎使用上の注意

#### (1) 一般的注意

1) 血液循環時間の測定又は心拍出量の測定における本剤の使用は、本剤より被ばく線量の少ない薬剤が入り得ない場合に限る。

2) 患者への被ばく線量を軽減させるため、投与量は最少限度にとどめること。

#### (2) 妊婦・授乳婦等への投与

胎児に対する被ばくの危険性が考えられるので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。

授乳中の婦人に投与したときは、授乳を禁止すること。

#### (3) 18才未満の者への投与

診断上の有益性が被ばくによる不利益を上まわると判断される場合のみ投与すること。

#### (4) 適用上の注意

本剤を投与するにあたっては放射性ヨウ素が甲状腺に摂取されることを防止するため、投与前日から試験後も数日無機ヨウ素1日20mg以上を投与し、甲状腺ヨウ素摂取能を抑制しておく必要がある。

## 販売名（会社名）

人血清アルブミン・I-131・注（ミドリ十字），放射性ヨウ化人血清アルブミン注射液（第一R.I.C.）

## ヨウ化ヒプurl酸ナトリウム（<sup>131</sup>I）

### 効能・効果

腎及び尿路疾患の診断

### 用法・用量

#### 1. 機能検査

本品 10～50 $\mu$ Ciを静注後，腎臓部の放射能を連続的に記録し，レノグラムを得る。

尿路機能検査を行う場合は，膀胱部の放射能をも連続的に測定する。

#### 2. シンチグラム

本品 50～500 $\mu$ Ciを静注し，ガンマカメラ等で腎・尿路系のシンチグラムを得る。

### ◎使用上の注意

#### (1) 一般的注意

1) 本剤の使用は，本剤より被ばく線量の少ない薬剤が入手し得ない場合に限る。

2) 患者への被ばく線量を軽減させるため，投与量は最少限度にとどめること。

#### (2) 次の患者には慎重に投与すること

1) 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

2) 高度の腎機能障害のある患者

#### (3) 副作用

1) ショック ショック様症状を起こすことがあるので，めまい，悪心等の症状があらわれた場合には，投与を中止すること。

2) 過敏症 発赤等の過敏症状があらわれることがある。

#### (4) 妊婦・授乳婦等への投与

胎児に対する被ばくの危険性が考えられるので，妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。

授乳中の婦人に投与したときは，授乳を禁止すること。

#### (5) 18才未満の者への投与

診断上の有益性が被ばくによる不利益を上まわると判

断される場合のみ投与すること。

### (6) 適用上の注意

高度の腎機能障害を有する患者に本剤によるシンチグラムを施行する場合には，放射性ヨウ素が甲状腺に摂取されることを防止するため，投与前日から試験日後も数日無機ヨウ素を1日20mg以上投与し，甲状腺ヨウ素摂取能を抑制しておくことが望ましい。

## 販売名（会社名）

ヒップラン・I-131・注（ミドリ十字），放射性ヨウ化馬尿酸ナトリウム注射液（第一R・I・C.），ラジオヒップラン—131（ダイナボット）

## 金コロイド（<sup>198</sup>Au）（診断用）

### 効能・効果

肝シンチグラム又は肝血流量測定による肝疾患の診断，リンパ系シンチグラムによるリンパ系閉塞及び悪性腫瘍転移の診断

### 用法・用量

#### 1. 肝シンチグラム

通常，本品 100～400 $\mu$ Ciを静注し，10～30分後に種々の体位で，ガンマカメラ又はシンチレーションスキャナを用いて肝シンチグラムを得る。

#### 2. 肝血流量の測定

空腹時，安静臥床したまま本品 10～30 $\mu$ Ci（肝シンチグラフィを同時に行う場合は100～400 $\mu$ Ci）を静注する。静脈採血法あるいは肝集積曲線記録より血中消失率又は肝集積率を測定し，肝血流量指標K値を算出する。

#### 3. リンパ系シンチグラム

本品 50～150 $\mu$ Ciをリンパ系支配下の皮下に投与し，適当な時間間隔で，ガンマカメラ又はシンチレーションスキャナを用いてシンチグラムを得る。

### ◎使用上の注意

#### (1) 一般的注意

1) 本剤の使用は，本剤より被ばく線量の少ない薬剤が入手し得ない場合に限る。

（ICRP Publication 25の表2によれば，投与量1 $\mu$ Ciあたりの肝被ばく線量は<sup>99m</sup>Tc製剤に比し，本剤では100倍以上である。）

2) 患者への被ばく線量を軽減させるため，投与量は

最少限度にとどめること。

## (2) 妊婦・授乳婦等への投与

胎児に対する被ばくの危険性が考えられるので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。

授乳中の婦人に投与したときは、授乳を禁止すること。

## (3) 18才未満の者への投与

診断上の有益性が被ばくによる不利益を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

### 販売名(会社名)

金-198・コロイド・希薄注(ミドリ十字), 診断用放射性金コロイド注射液(第一R.I.C.)

## クロム酸ナトリウム ( $^{51}\text{Cr}$ )

### 効能・効果

循環血液量・循環赤血球量の測定, 赤血球寿命の測定

### 用法・用量

#### 1. 循環血液量・循環赤血球量の測定

##### 1) アスコルビン酸還元法

被検血液20~30mlにACD液及び本品30~100 $\mu\text{Ci}$ を加え放置後, アスコルビン酸を添加し $^{51}\text{Cr}$ 標識血液を調製する。 $^{51}\text{Cr}$ 標識血液10~20mlを静注し, 10~30分後に血液5~10mlを採血する。 $^{51}\text{Cr}$ 標識血液及び採取血液はいずれも一定量を生理食塩水で洗浄したのち, その計数率を測定し, 次式により循環血液量等を算出する。

$$\text{循環血液量 (ml)} = \frac{{}^{51}\text{Cr標識血液 1 mlあたりの赤血球計数率}}{\text{採取血液 1 mlあたりの赤血球計数率}} \times \text{注入量}$$

循環赤血球量 (ml)

$$= \text{循環血液量} \times \text{静脈ヘマトクリット値} \times 0.9^*$$

\*静脈ヘマトクリットの補正值

##### 2) 赤血球洗浄法

被検血液20~30mlにACD液及び本品30~100 $\mu\text{Ci}$ を加

え, 放置後生理食塩水で洗浄し, 最後に生理食塩水を加えて $^{51}\text{Cr}$ 標識赤血球浮遊液を調製する。 $^{51}\text{Cr}$ 標識赤血球浮遊液10~20mlを静注し, 10~30分後に血液5~10mlを採血し,  $^{51}\text{Cr}$ 標識赤血球浮遊液と共に計数率を測定する。次式により, 循環血液量等を算出する。

$$\text{循環血液量 (ml)} = \frac{{}^{51}\text{Cr標識赤血球浮遊液 1 mlあたりの計数率}}{\text{採取血液 1 mlあたりの計数率}} \times \text{注入量}$$

循環赤血球量 (ml)

$$= \text{循環血液量} \times \text{静脈ヘマトクリット値} \times 0.9^*$$

\*静脈ヘマトクリットの補正值

#### 2. 赤血球寿命測定

本品100 $\mu\text{Ci}$ を用いて循環血液量・循環赤血球量測定の際と同様の方法で, 赤血球を標識する。 $^{51}\text{Cr}$ 標識液10~20ml静注後経時的に採血し, 計数率を測定する。次式により, 赤血球生存率を算出しグラフ上にプロットする。

$$\text{赤血球生存率} = \frac{\text{静注後任意日の採取血液 1 mlあたりの計数率}}{\text{静注30分あるいは24時間後の採取血液 1 mlあたりの計数率}} \times 100$$

計数率が半分になった時すなわち生存半減期をもって赤血球半寿命とする。

### ◎使用上の注意

#### (1) 一般的注意

患者への被ばく線量を軽減させるため, 投与量は最少限度にとどめること。

#### (2) 妊婦・授乳婦等への投与

胎児に対する被ばくの危険性が考えられるので, 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。

授乳中の婦人に投与したときは, 授乳を禁止すること。

#### (3) 18才未満の者への投与

診断上の有益性が被ばくによる不利益を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

### 販売名(会社名)

放射性クロム酸ナトリウム注射液(第一R.I.C.)

## ◇…X線造影剤…◇

### 〔医療用単味剤〕

#### アミドトリゾ酸メグルミン

##### 効能・効果

静脈性尿路撮影，脳血管撮影，血管心臓撮影（肺血管撮影を含む），大動脈撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，内視鏡的逆行性膵胆管撮影，経皮経肝胆道撮影，コンピュータ断層撮影における造影

##### 用法・用量

アミドトリゾ酸メグルミンとして，通常成人1回下記量を使用する。なお，年齢，体重，症状，目的により適宜増減する。

（65%注射液）

静脈性尿路撮影：20～100ml（投与するときは，適宜点滴静注などを用いる）

脳血管撮影：10ml

血管心臓撮影（肺血管撮影を含む）：40～80ml

大動脈撮影：30～50ml

選択的血管撮影：5～40ml

四肢血管撮影：20～40ml

内視鏡的逆行性膵胆管撮影：20～40ml

経皮経肝胆道撮影：20～60ml

コンピュータ断層撮影における造影：100ml

##### ◎使用上の注意

###### 警告

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

##### (1) 一般的注意

1) ショックなどの反応を予測するため，使用に際しては，十分な問診を行うとともに，あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても，使用に際して過敏反応を示すことがある。また，テスト実

施時にまれに過敏反応を示すことがあるので，このような場合には，ただちに投与を中止し，適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応（悪心・嘔吐，せき，くしゃみ，あくび，頭痛等）が進展し，重篤なショック症状に至る場合があるので，使用後も患者の状態を観察すること。

##### (2) 次の患者には投与しないこと

1) ヨード過敏症の既往歴のある患者

2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが，特に必要とする場合には慎重に投与すること

1) 一般状態の極度に悪い患者

2) 重篤な心障害のある患者（やむをえず血管心臓造影を行う場合には慎重に行うこと。）

3) 重篤な肝障害のある患者

4) 重篤な腎障害（無尿等）のある患者

5) 急性膵炎の患者

6) マクログロブリン血症，多発性骨髄腫の患者

7) テタニーのある患者

8) 褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者

（血圧上昇発作が起こるので逆行性静脈造影は避けること。やむをえず動脈より注入する場合には，静脈確保の上，フェントールアミン等の $\alpha$ -遮断薬を投与し，患者の状態を十分観察しながら慎重に投与すること。）

##### (4) 次の患者には慎重に投与すること

1) 本人又は両親，兄弟に気管支喘息，発疹，じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

2) 薬物過敏症の既往歴のある患者

3) 脱水症状のある患者

4) 高血圧症の患者

5) 動脈硬化のある患者

6) 糖尿病の患者

7) 甲状腺疾患のある患者

8) 幼・小児及び高齢者

##### (5) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあ

るので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合がありますので、観察を十分に行うこと。

2) **過敏症** 次のような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

ア **皮膚** ときにじん麻疹、発疹、掻痒感、また、まれに紅潮

イ **循環器** ときに血圧低下、また、まれに心悸亢進

ウ **呼吸器** ときにせき、また、まれに呼吸困難、喘息発作、頻呼吸、咽頭不快感、くしゃみ

エ **消化器** ときに悪心・嘔吐

オ **その他** ときに胸部苦悶感、熱感、また、まれにあくび、眼瞼浮腫

3) **精神神経系** まれに不安感、頭痛、虚脱等の症状があらわれることがある。

4) **循環器** まれに不整脈等の症状があらわれることがある。

5) **腎臓** 腎不全等の症状があらわれることがある。

#### (6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

#### (7) 臨床検査値への影響

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。(検査値に影響を及ぼすことがある。)

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

#### (8) 適用上の注意

1) 腎臓造影には使用しないこと。  
2) 静脈内投与より血管痛、血栓性静脈炎があらわれることがある。

3) 投与前に体温まで温めること。

#### 販売名(会社名)

アンギオグラフィン(日本シエリング)

## イオタラム酸ナトリウム

### 効能・効果

(66.8%注射液)

静脈性尿路撮影、血管心臓撮影(肺血管撮影を含む)、大動脈撮影、上・下大静脈撮影、四肢血管撮影、経脾門脈撮影、精のう腺撮影、コンピュータ断層撮影における造影

(80%注射液)

血管心臓撮影(肺血管撮影を含む)、大動脈撮影、上・下大静脈撮影、経脾門脈撮影、精のう腺撮影

\*\*下記の適応については、有効性は認められるが、有効性と副作用とを対比したとき、他に適切な薬剤があるので有用性は認められない。

(80%注射液)

静脈性尿路撮影、コンピュータ断層撮影における造影

### 用法・用量

イオタラム酸ナトリウムとして、通常成人1回下記量を使用する。なお、年齢、体重、症状、目的により適宜増減する。

	(66.8%注射液)	(80%注射液)
静脈性尿路撮影	: 20~40ml	—
血管心臓撮影(肺血管撮影を含む)		
	: 40~50ml	40~50ml
大動脈撮影	: 30~50ml	30~50ml
上・下大静脈撮影	: 20~30ml	20~30ml
四肢血管撮影	: 20~40ml	—
経脾門脈撮影	: 30~60ml	30~60ml
精のう腺撮影	: 1~4 ml	1~4 ml
コンピュータ断層撮影における造影:		
	20~40ml	—

### ◎使用上の注意

#### 警告

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

#### (1) 一般的注意

1) ショックなどの反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うとともに、あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても、使用に際して過敏反応を示すことがある。また、テスト実施時にまれに過敏反応を示すことがあるので、このよう

な場合には、ただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応（悪心・嘔吐、せき、くしゃみ、あくび、頭痛等）が進展し、重篤なショック症状に至る場合があるので、使用後も患者の状態を観察すること。

**(2) 次の患者には投与しないこと**

1) ヨード過敏症の既往歴のある患者

2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

**(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること**

1) 一般状態の極度に悪い患者

2) 重篤な心障害のある患者（やむをえず血管心臓造影を行う場合には慎重に行うこと。）

3) 重篤な肝障害のある患者

4) 重篤な腎障害（無尿等）のある患者

5) 急性肺炎の患者

6) マクログロブリン血症、多発性骨髄腫の患者

7) テタニーのある患者

8) 褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者（血圧上昇発作が起こるので逆行性静脈造影は避けること。やむをえず動脈より注入する場合には、静脈確保の上、フェントールアミン等の $\alpha$ -遮断薬を投与し、患者の状態を十分観察しながら慎重に投与すること。）

**(4) 次の患者には慎重に投与すること**

1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

2) 薬物過敏症の既往歴のある患者

3) 脱水症状のある患者

4) 高血圧症の患者

5) 動脈硬化のある患者

6) 糖尿病の患者

7) 甲状腺疾患のある患者

8) 幼・小児及び高齢者

**(5) 副作用**

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合があるので、観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 次のような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行う

こと。

ア 皮膚 ときにじん麻疹、発赤、また、まれに紅潮、掻痒感

イ 循環器 ときに血圧低下、また、まれに心悸亢進。

ウ 呼吸器 ときに喘鳴、せき、くしゃみ、また、まれに呼吸困難、喘息発作

エ 消化器 ときに悪心・嘔吐、口内異常感

オ その他 ときに熱感、悪寒、眼瞼浮腫

3) 精神神経系 ときに頭痛、頭重、倦怠感、また、まれにめまい等の症状があらわれることがある。

4) 循環器 ときに不整脈、一過性の心拍停止（血管心臓造影時）等の症状があらわれることがある。

5) 消化器 ときに下痢、腹痛等の症状があらわれることがある。

6) 腎臓 腎不全等の症状があらわれることがある。

**(6) 妊婦への投与**

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をともなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

**(7) 臨床検査への影響**

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

**(8) 適用上の注意**

1) 脊髄造影には使用しないこと。

2) 脳血管造影には使用しないこと。

3) 静脈内投与により血管痛、血栓性静脈炎があらわれることがある。

4) 投与前に体温まで温めること。

**販売名（会社名）**

アンギオコンレイ注、コンレイ400注（第一製薬）

## イオタラム酸メグルミン

### 効能・効果

(60%注射液)

静脈性尿路撮影，逆行性尿路撮影，脳血管撮影，大動脈撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，内視鏡的逆行性膵胆管撮影，経皮経肝胆道撮影，関節撮影，コンピュータ断層撮影における造影

(30%注射液)

静脈性尿路撮影，逆行性尿路撮影，コンピュータ断層撮影における造影

### 用法・用量

イオタラム酸メグルミンとして，通常成人1回下記量を使用する。なお，年齢，体重，症状，目的により適宜増減する。

	(60%注射液)	(30%注射液)
静脈性尿路撮影	: 20~100ml	150~220ml
(50ml以上を投与するときは通常点滴とする)		
逆行性尿路撮影	: 5~20ml	5~20ml
脳血管撮影	: 7~15ml	—
大動脈撮影	: 30~50ml	—
選択的血管撮影	: 5~40ml	—
四肢血管撮影	: 20~40ml	—
内視鏡的逆行性膵胆管撮影		
	: 膵管 2~4 ml	—
	: 胆管 5~15ml	—
経皮経肝胆道撮影	: 20~60ml	—
関節撮影	: 適宜	—
コンピュータ断層撮影における造影		
	: 40~50ml	150~220ml
	(点滴の場合50~100ml)	

### ◎使用上の注意

#### 警告

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

#### (1) 一般的注意

1) ショックなどの反応を予測するため，使用に際しては，十分な問診を行うとともに，あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても，使用に際して過敏反応を示すことがある。また，テスト実

施時にまれに過敏反応を示すことがあるので，このような場合には，ただちに投与を中止し，適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応(悪心・嘔吐，せき，くしゃみ，あくび，頭痛等)が進展し，重篤なショック症状に至る場合があるので，使用後も患者の状態を観察すること。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

1) ヨード過敏症の既往歴のある患者

2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが，特に必要とする場合には慎重に投与すること

1) 一般状態の極度に悪い患者

2) 重篤な心障害のある患者

3) 重篤な肝障害のある患者

4) 重篤な腎障害(無尿等)のある患者

5) 急性膵炎の患者

6) マクログロブリン血症，多発性骨髄腫の患者

7) テタニーのある患者

8) 褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者(血圧上昇発作が起こるので逆行性静脈造影は避けること。やむを得ず動脈より注入する場合には，静脈確保の上，フェントールアミン等の $\alpha$ -遮断薬を投与し，患者の状態を十分観察しながら慎重に投与すること。)

#### (4) 次の患者には慎重に投与すること

1) 本人又は両親，兄弟に気管支喘息，発疹，じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

2) 薬物過敏症の既往歴のある患者

3) 脱水症状のある患者

4) 高血圧症の患者

5) 動脈硬化のある患者

6) 糖尿病の患者

7) 甲状腺疾患のある患者

8) 幼・小児及び高齢者

#### (5) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので，観察を十分に行い，必要に応じ適切な処置を行うこと。

また，軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合があるので，観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 次のような症状があらわれることがある

ので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

ア 皮膚 ときにじん麻疹、発赤、紅潮、また、まれに痒痒感

イ 循環器 まれに心悸亢進、血圧低下

ウ 呼吸器 まれに呼吸困難、喘息発作、喘鳴、せき、くしゃみ

エ 消化器 ときに悪心・嘔吐、また、まれに口内異常感

オ その他 ときに熱感、悪寒、眼瞼浮腫

3) 精神神経系 ときに頭痛、頭重、ねむけ、また、まれにめまい、歯痛、痙攣、視力障害（脳血管造影時）等の症状があらわれることがある。

4) 循環器 ときに不整脈等の症状があらわれることがある。

5) 腎臓 腎不全等の症状があらわれることがある。

#### (6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合のみ投与すること。

#### (7) 臨床検査値への影響

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

#### (8) 適用上の注意

1) 脊髄造影には使用しないこと。  
2) 静脈内投与により血管痛、血栓性静脈炎があらわれることがある。

3) 投与前に体温まで温めること。

#### 販売名（会社名）

コンレイ注、DIPコンレイ注（第一製薬）

## ヨードミドメグルミン

### 効能・効果

（64.9%注射液）

静脈性尿路撮影、逆行性尿路撮影、脳血管撮影、血管心臓撮影（肺血管撮影を含む）、大動脈撮影、選択的血管撮影、四肢血管撮影、コンピュータ断層撮影における造影

（点滴静注用64.9%注射液・32.45%注射液）

静脈性尿路撮影、コンピュータ断層撮影における造影

### 用法・用量

ヨードミドメグルミンとして、通常成人1回下記量を使用する。なお、年齢、体重、症状、目的により適宜増減する。

	（64.9%注射液）	（点滴静注用64.9%注射液）	（点滴静注用32.45%注射液）
静脈性尿路撮影：20～40ml	50～100ml (1～2ml/kg)	100～200ml (2～4ml/kg)	—
逆行性尿路撮影：5～100ml	—	—	—
脳血管撮影：10～12ml	—	—	—
血管心臓撮影：20～80ml （肺血管撮影を含む）	—	—	—
大動脈撮影：30～50ml	—	—	—
選択的血管撮影：5～40ml	—	—	—
四肢血管撮影：20～50ml	—	—	—
コンピュータ断層撮影における造影	20～40ml (0.4～0.8ml/kg)	100ml	200ml

### ◎使用上の注意

#### 警告

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

#### (1) 一般的注意

1) ショックなどの反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うとともに、あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても、使用に際して過敏反応を示すことがある。また、テスト実施時にまれに過敏反応を示すことがあるので、このような場合には、ただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応（悪心・嘔吐、せき、くしゃみ、あくび、頭痛等）が進展し、重篤なショック症状に至る場合があるので、使用後も患者の状態を観察すること。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

1) ヨード過敏症の既往歴のある患者

2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること

1) 一般状態の極度に悪い患者

2) 重篤な心障害のある患者（やむをえず血管心臓造影を行う場合には慎重に行うこと。）

3) 重篤な肝障害のある患者

4) 重篤な腎障害（無尿等）のある患者

5) 急性膵炎の患者

6) マクログロブリン血症、多発性骨髄腫の患者

7) テタニーのある患者

8) 褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者（血圧上昇発作が起こるので逆行性静脈造影は避けること。やむをえず動脈より注入する場合には、静脈確保の上、フェントールアミン等の $\alpha$ -遮断薬を投与し、患者の状態を十分観察しながら慎重に投与すること。）

#### (4) 次の患者には慎重に投与すること

1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

2) 薬物過敏症の既往歴のある患者

3) 脱水症状のある患者

4) 高血圧症の患者

5) 動脈硬化のある患者

6) 糖尿病の患者

7) 甲状腺疾患のある患者

8) 幼・小児及び高齢者

#### (5) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合があるので、観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 次のような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

ア 皮膚 ときにじん麻疹、発赤、紅潮、掻痒感

イ 循環器 ときに血圧低下、また、まれに心悸亢進  
ウ 呼吸器 ときに呼吸困難、せき、くしゃみ、また、まれに喘息発作

エ 消化器 悪心・嘔吐

オ その他 熱感、また、ときに不快感、胸部苦悶感、悪寒

3) 精神神経系 ときに頭痛、頭重等の症状があらわれることがある。

4) 循環器 まれに不整脈等の症状があらわれることがある。

5) 腎臓 腎不全等の症状があらわれることがある。

#### (6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまらうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合のみ投与すること。

#### (7) 臨床検査値への影響

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

#### (8) 適用上の注意

1) 脊椎造影には使用しないこと。

2) 静脈内投与により血管痛、血栓性静脈炎があらわれることがある。

3) 投与前に体温まで温めること。

#### 販売名（会社名）

コンラキシンL20, 同L100, 同D（武田薬品）

#### イオパノ酸

#### 効能・効果

胆嚢・胆管撮影

#### 用法・用量

通常、撮影予定10～15時間前に、イオパノ酸として3.0gをコップ1杯以上の水とともに一度に、または5分毎に0.5gずつ経口投与する。

胆管撮影は胆嚢撮影後高脂肪食等を投与し、10～60分

後に撮影する。

小児には、イオパノ酸として50mg/kgを基準として経口投与する。

なお、通常の方法では胆嚢が造影されないか、または不鮮明で胆石症が疑われるとき、適宜イオパノ酸として1日量3.0gを食後3回に分割、反復経口投与し撮影する。

#### ◎使用上の注意

##### (1) 一般的注意

ヨード系造影剤に過敏な反応を予測するため、使用に際しては十分な問診を行うこと。

##### (2) 次の患者には投与しないこと

- 1) ヨード過敏症の既往歴のある患者
- 2) 重篤な甲状腺疾患のある患者
- 3) 重篤な肝障害のある患者
- 4) 重篤な腎障害のある患者

##### (3) 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者
- 2) 冠動脈疾患のある患者（血圧を測定するなど観察を十分に行うこと。）

##### (4) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合があるので、観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 ときに発疹、痒痒感、咽喉灼熱感、また、まれにじん麻疹、顔面紅潮、発熱、倦怠感等の症状があらわれることがある。

3) 精神神経系 ときに頭痛、めまい等の症状があらわれることがある。

4) 消化器 悪心・嘔吐、下痢、また、ときにのどのかわきと痛み、腹痛、胸やけ等の症状があらわれることがある。

5) 泌尿器 ときに排尿時灼熱感、排尿痛、排尿障害等の症状があらわれることがある。

6) 血液 まれに血小板減少等の症状があらわれることがある。

##### (5) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益

性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

##### (6) 臨床検査値への影響

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

##### 販売名（会社名）

イオパノ酸錠（共和薬品）、イオパノ酸錠「日臓」（日本臓器）、エースライン錠（丸石製薬）、ゴールバック（堀井薬品）、シストビル（東菱薬品）、シルエトン錠（持田製薬）、テレパーク（日本商事）、モルパーク（東邦化学研）、ヨーパーノ酸錠「ドージン」（同仁医薬化工）

#### アジピオドンメグルミン

##### 効能・効果

㊦アジピオドンメグルミン注射液〔30%、50%〕

胆嚢・胆管撮影

（点滴静注用4.8%注射液）

胆嚢・胆管撮影

（70%注入液）

卵管撮影、瘻孔撮影

##### 用法・用量

㊦アジピオドンメグルミン注射液〔30%、50%〕

通常、本剤20mlをできるだけ緩徐（30%注射液3～5分、50%注射液5～10分）に静脈内注射する。

肥満患者、胆嚢剔除患者又は経口剤で胆嚢像陰性の患者では50%注射液を投与する。

点滴静注法として、本剤40mlを糖液又は生理食塩液と混合して緩徐（30～60分）に点滴静注する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

（点滴静注用4.8%注射液）

通常成人250mlを30～60分にわたり点滴静注する。

なお、年齢、症状により投与量、点滴時間を適宜増減する。

（70%注入液）

通常の方法で導管より注入し、卵管撮影の場合は子宮

腔が完全に充満した時に第1回、卵管が充満し造影剤が腹腔内に流出し始めた時に第2回を撮影する。

瘻孔撮影の場合は状態に応じて行う。

#### ◎使用上の注意

(胆嚢・胆管撮影)

#### 警告

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

#### (1) 一般的注意

1) ショックなどの反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うとともに、あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても、使用に際して過敏反応を示すことがある。また、テスト実施時にまれに過敏反応を示すことがあるので、このような場合には、ただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応（悪心・嘔吐、せき、くしゃみ、あくび、頭痛等）が進展し、重篤なショック症状に至る場合があるので、使用後も患者の状態を観察すること。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

- 1) ヨード過敏症の既往歴のある患者
- 2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること

- 1) 一般状態の極度に悪い患者
- 2) 重篤な心障害のある患者
- 3) 重篤な肝障害のある患者
- 4) 重篤な腎障害（無尿等）のある患者
- 5) マクログロブリン血症の患者
- 6) テタニーのある患者

#### (4) 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者
- 2) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- 3) 脱水症状のある患者
- 4) 高血圧症の患者
- 5) 動脈硬化のある患者
- 6) 甲状腺疾患のある患者

7) 多発性骨髄腫の患者

#### (5) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合がありますので、観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 次のような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

ア 皮膚 ときにじん麻疹、紅潮、掻痒感

イ 循環器 まれに心悸亢進、血圧低下

ウ 呼吸器 ときにせき、咽頭不快感、くしゃみ、また、まれに呼吸困難、喘息発作、頻呼吸

エ 消化器 悪心・嘔吐、ときに口内異常感、また、まれに口渇

オ その他 まれに季肋部痛、熱感、悪寒、あくび、眼瞼浮腫

3) 精神神経系 ときに不安感、めまい、また、まれに頭痛、倦怠感、虚脱等の症状があらわれることがある。

4) 循環器 まれに不整脈等の症状があらわれることがある。

5) 消化器 ときに腹痛、便秘等の症状があらわれることがある。

6) 腎臓 腎不全等の症状があらわれることがある。

#### (6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をともなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

#### (7) 臨床検査値への影響

甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

#### (8) 適用上の注意

- 1) 脊髓造影には使用しないこと。
- 2) 投与前に体温まで温めること。
- 3) 注入はできる限りゆっくり行うこと。

(卵管撮影・瘻孔撮影)

**警告**

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

(1) 一般的注意

1) ショックなどの反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うとともに、あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても、使用に際して過敏反応を示すことがある。また、テスト実施時にまれに過敏反応を示すことがあるので、このような場合には、ただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応(悪心・嘔吐、せき、くしゃみ、あくび、頭痛等)が進展し、重篤なショック症状に至る場合があるので、使用後も患者の状態を観察すること。

(2) 次の患者には投与しないこと

- 1) ヨード過敏症の既往歴のある患者
- 2) 重篤な甲状腺疾患のある患者
- 3) 妊婦又は妊娠している可能性のある患者
- 4) 骨盤腔内に急性炎症性疾患のある患者

(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること

- 1) 一般状態の極度に悪い患者
- 2) 重篤な心障害のある患者
- 3) 重篤な肝障害のある患者
- 4) 重篤な腎障害(無尿等)のある患者
- 5) マクログロブリン血症の患者

(4) 次の患者には慎重に投与すること

1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

- 2) 甲状腺疾患のある患者
- 3) 多発性骨髄腫の患者

(5) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合があるので、観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 次のような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

- ア 皮膚 まれにじん麻疹、発疹、紅潮、掻痒感
- イ 消化器 悪心・嘔吐
- ウ その他 まれに悪寒、眼瞼浮腫

3) その他 検査の1～数時間後に発熱、下腹部痛があらわれることがある。

(6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人は投与しないこと。

(7) 臨床検査値への影響

甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。(検査値に影響を及ぼすことがある。)

(8) 適用上の注意

脊髓造影には使用しないこと。

販売名(会社名)

エンドグラフオン、ビリグラフオン30%、同50%、同DIC(日本シェーリング)

イオポダートナトリウム

効能・効果

胆嚢・胆管撮影

用法・用量

一般的に胆嚢撮影は検査の前夜、イオポダートナトリウムとして、通常成人1回3gを経口投与し、10～12時間後に撮影する。

迅速胆嚢撮影にはイオポダートナトリウムとして、6gを投与し、3～5時間後に撮影する。

胆管撮影には、イオポダートナトリウムとして、6gを投与し、2.5～3時間後に撮影する。

通常の方法では胆嚢が造影されないか又は不鮮明で胆石症が疑われるときは、イオポダートナトリウムとして、1回1gを1日3回食後に3日間連続投与し、4日目の朝に撮影する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

◎使用上の注意

#### (1) 一般的注意

ヨード系造影剤に過敏な反応を予測するため、使用に際しては十分な問診を行うこと。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

- 1) ヨード過敏症の既往歴のある患者
- 2) 重篤な甲状腺疾患のある患者
- 3) 重篤な肝障害のある患者
- 4) 重篤な腎障害のある患者

#### (3) 次の患者には慎重に投与すること

本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

#### (4) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合がありますので、観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 ときにじん麻疹、顔面紅潮、痒痒感、咽喉灼熱感、発熱、関節痛、倦怠感、また、まれに発疹等の症状があらわれることがある。

3) 循環器 まれに心悸亢進等の症状があらわれることがある。

4) 精神神経系 ときに頭痛、めまい等の症状があらわれることがある。

5) 消化器 悪心・嘔吐、また、ときにのどのかわきと痛み、下痢、腹痛等の症状があらわれることがある。

6) 泌尿器 ときに排尿痛、排尿障害等の症状があらわれることがある。

#### (5) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

#### (6) 臨床検査値への影響

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。(検査値に影響を及ぼすことがある。)

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

#### 販売名(会社名)

ビロブチン(日本シェーリング)

#### イオベンザム酸

#### 効能・効果

胆嚢・胆管撮影

#### 用法・用量

撮影前日、夕食後、イオベンザム酸として、通常成人3gを服用する。服用後、X線検査まで食物を摂取しないこと。又下剤などを用いてはならない。

撮影時間は服用後約12時間を標準とする。

#### ◎使用上の注意

#### (1) 一般的注意

ヨード系造影剤に過敏な反応を予測するため、使用に際しては十分な問診を行うこと。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

- 1) ヨード過敏症の既往歴のある患者
- 2) 重篤な甲状腺疾患のある患者
- 3) 重篤な肝障害のある患者
- 4) 重篤な腎障害のある患者

#### (3) 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者
- 2) 冠不全のある患者(血圧を観察すること。)

#### (4) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合がありますので、観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 ときにじん麻疹、発熱、顔面紅潮、痒痒感、咽喉灼熱感、発熱、倦怠感、不快感等の症状があらわれることがある。

3) 循環器 ときに心悸亢進等の症状があらわれることがある。

4) 精神神経系 ときに頭痛、めまい等の症状があらわれることがある。

5) 消化器 ときに悪心・嘔吐、のどのかわきと痛み、下痢、腹痛、便秘、鼓腸等の症状があらわれることがある。

6) 泌尿器 ときに排尿痛、排尿障害、頻尿等の症状があらわれることがある。

7) 血液 ときに血小板減少等の症状があらわれることがある。

## (5) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

## (6) 臨床検査値への影響

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。(検査値に影響を及ぼすことがある。)

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

### 販売名(会社名)

オスビル錠(中外製薬)

## イオフェンジラート

### 効能・効果

脊髓撮影、脳室撮影

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：リンパ系造影

### 用法・用量

脊髓撮影：通常、腰椎穿刺によりイオフェンジラートとして、3～6mlをクモ膜下腔に注入する。なお、クモ膜下腔の広さ、撮影部位に応じて適宜増減する。

また、大量注入を必要とする場合、適当な量の脳脊髄液をあらかじめ除去する事が望ましい。

### 脳室撮影：

通常、脳室穿刺によりイオフェンジラートとして、1～3mlを注入する。なお副作用の予防または軽減のために、検査前後持続して脳室ドレナージを併用することが望ましい。

## ヨード化ケシ油脂脂肪酸エチルエステル

### 効能・効果

リンパ系撮影、子宮卵管撮影

### 用法・用量

リンパ系撮影

本剤を皮膚直下の末梢リンパ管内に注入する。

用量はヨード化ケシ油脂脂肪酸エチルエステルとして、通常、上腕片側5～6ml、下肢片側10mlである。

注入速度は毎分0.3～0.5ml程度が望ましい。

子宮卵管撮影：

用時医師が定める。ただしヨード化ケシ油脂脂肪酸エチルエステルとして、通常、5～8mlを200mmHg以下の圧で注入することを原則とし、症状により適宜増減する。

### ◎使用上の注意

(リンパ系撮影)

#### (1) 一般的注意

1) ヨード系造影剤に過敏な反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うこと。

2) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

- 1) ヨード過敏症の既往歴のある患者
- 2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること

- 1) 一般状態の極度に悪い患者
- 2) 重篤な心障害のある患者
- 3) 重篤な肝障害のある患者
- 4) 重篤な腎障害(無尿等)のある患者
- 5) 呼吸機能の著しく低下している患者
- 6) リンパ管閉塞の明らかな患者、急性耳下腺炎又はリンパ系に炎症のある患者

#### (4) 次の患者には慎重に投与すること

1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

2) 甲状腺疾患のある患者

#### (5) 副作用

1) 過敏症 ときに発疹、せき、くしゃみ、熱感等の症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

2) 呼吸器 肺炎、肺塞栓、また、ときに喀痰等の症状があらわれることがある。

3) 消化器 ときに食欲不振、また、まれに下痢等の症状があらわれることがある。

4) リンパ系 注入部位の疼痛、一過性のリンパ管炎があらわれることがある。

5) その他 まれに脳塞栓があらわれることがある。

#### (6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

#### (7) 臨床検査値への影響

甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

#### (8) 適用上の注意

- 1) 静脈内に注入しないように注意すること。
- 2) リンパ管破裂、造影剤の管外漏出、疼痛が発生することがあるので本剤の注入量、注入速度等については十分注意すること。
- 3) 皮膚切開部の局所感染を起こすことがあるので局所の消毒を十分に行うこと。

（子宮・卵管撮影）

#### (1) 一般的注意

1) ヨード系造影剤に過敏な反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うこと。

2) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

- 1) ヨード過敏症の既往歴のある患者
  - 2) 重篤な甲状腺疾患のある患者
  - 3) 妊婦又は妊娠している可能性のある患者
- (3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること

- 1) 一般状態の極度に悪い患者
- 2) 重篤な心障害のある患者

#### (4) 次の患者には慎重に投与すること

1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

2) 甲状腺疾患のある患者

#### (5) 副作用

1) 過敏症 ときに発疹、せき、くしゃみ、熱感等の症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

2) 呼吸器 ときに喀痰等の症状があらわれることがある。

3) 消化器 ときに食欲不振、また、まれに下痢等の

症状があらわれることがある。

4) 異物肉芽腫 子宮卵管造影に際して卵管通過性不良の場合、卵管内に造影剤が長期残留して、異物肉芽腫を生ずることがある。（とくに通過障害が炎症の場合には、炎症を再燃させる危険性があるので注意すること。）

#### (6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。

#### (7) 臨床検査値への影響

甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

#### (8) 適用上の注意

- 1) 静脈内に注入しないように注意すること。
- 2) 疼痛、卵管壁の損傷、造影剤の脈管内侵入、異物肉芽腫が発生することがあるので本剤の注入量、注入速度等について十分注意すること。

#### 販売名（会社名）

リピオドールウルトラフルイド（小玉）

#### プロピリオドン

#### 効能・効果

気管支撮影，咽喉頭撮影，上顎洞撮影

#### 用法・用量

（50W/V%水性懸濁剤，60W/V%油性懸濁剤）

気管支撮影：

通常10～20mlを気管支の片側に注入する。

咽喉頭撮影：

通常5～15mlを咽喉頭に注入する。

上顎洞撮影：

通常片側3～5mlを上顎洞内に注入する。

#### ◎使用上の注意

#### (1) 一般的注意

1) ヨード系造影剤に過敏な反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うこと。

2) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

1) ヨード過敏症の既往歴のある患者

2) 重篤な甲状腺疾患のある患者  
 (3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること

- 1) 一般状態の極度に悪い患者
- 2) 重篤な心障害のある患者
- 3) 重篤な肝障害のある患者
- 4) 重篤な腎障害（無尿等）のある患者
- 5) 呼吸機能の著しく低下している患者
- 6) 急性気管支炎，肺炎，渗出性肺結核の患者
- 7) 咯血直後の患者

(4) 次の患者には慎重に投与すること

1) 本人又は両親，兄弟に気管支喘息，発疹，じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

- 2) 甲状腺疾患のある患者
- 3) 幼・小児及び高齢者

(5) 副作用

1) **過敏症** ときに発疹，鼻・咽喉灼熱感，関節痛，眼瞼浮腫等の症状があらわれることがあるので，観察を十分に行い，必要に応じ適切な処置を行うこと。

2) **呼吸器** 咯痰，ときに血痰，胸痛，咽喉頭痛，気管支痙攣，せき・喘鳴，また，まれに肺炎等の症状があらわれることがある。

3) **精神神経系** 発熱，ときに倦怠感，また，まれにめまい等の症状があらわれることがある。

4) **消化器** ときに食欲不振，また，まれに下痢等の症状があらわれることがある。

(6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また，本剤投与の際にはX線照射をとまなうので，妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には，診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

(7) 臨床検査値への影響

甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には，本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

(8) 適用上の注意

- 1) 静脈内に注入しないよう注意すること。
- 2) 小気管支の閉塞による肺拡張不全，肺胞内侵入と停滞による発熱等を起こすおそれがあるので，本剤投与の際には使用量，注入速度等について十分注意すること。
- 3) 両側気管支造影を行う場合には，片側ずつ造影しその間隔は5～6日あけること。

4) 造影剤注入時，咳嗽反射を避けるような適切な処置を行うこと。

5) 気管支造影後，本剤の排出を促進するため，できる限り体位喀出等の処置を行うこと。

6) 用時振盪し，均一な懸濁液としてから使用すること。

**販売名（会社名）**

ディオノジュール水性（日本グラクソー鳥居薬品）

## 硫酸バリウム

**効能・効果**

消化管撮影

（注腸専用剤）

消化管（大腸）撮影

**用法・用量**

（◎硫酸バリウム）

検査部位及び検査方法に応じ，適量の硫酸バリウムに適量の水又は水に懸濁化剤，甘味剤，香料等を加えた液を混和して適当な濃度とし，その適量を経口投与又は注腸する。

通常成人が下記量を標準とする。

検査部位	検査方法	硫酸バリウム濃度(W/V%)	用量(ml)
食道	（経口）	50～200	10～150
胃・十二指腸	（経口） 充盈 レリーフ 二重造影	50～150	20～300
小腸	（経口）		
大腸	（注腸）	20～130	200～2000

（散剤又は顆粒状製剤）

検査部位及び検査方法に応じ，本剤の適量に適量の水を加えて適当な濃度とし，その適量を経口投与又は注腸する。但し，専ら注腸に使用する製剤の場合は，経口投与してはならない。

通常成人は下記量を標準とする。

検査部位	検査方法	硫酸バリウム濃度(W/V%)	用量(ml)
食道	(経口)	50~200	10~150
胃・十二指腸	(経口) 充盈 レリーフ 二重造影	30~200	10~300
小腸	(経口)	30~150	100~300
大腸	(注腸)	20~130	200~2000

(懸濁剤)

検査部位及び検査方法に応じ、本剤をそのまま又は本剤の適量に適量の水を加え適当な濃度とし、その適量を経口投与又は注腸する。但し、専ら注腸に使用する製剤の場合は経口投与してはならない。

通常成人は下記量を標準とする。

検査部位	検査方法	硫酸バリウム濃度(W/V%)	用量(ml)
食道	(経口)	50~150	10~150
胃・十二指腸	(経口) 充盈 レリーフ 二重造影	30~150	10~300
小腸	(経口)	30~150	100~300
大腸	(注腸)	20~130	200~2000

但し、適用濃度は各々の製剤の硫酸バリウム含有濃度又はそれ以下とする。

◎使用上の注意

(経口)

(1) 次の患者には投与しないこと

- 1) 消化管の穿孔又はその疑いのある患者
- 2) 消化管に急性出血のある患者

(2) 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 消化管に瘻孔又はその疑いのある患者
- 2) 消化管の狭窄又は閉塞、あるいはそれらが疑われる患者

- 3) 全身衰弱の強い患者

(3) 副作用

消化管 排便困難、便秘、一過性の下痢・腹痛、肛門

部痛・出血等の症状があらわれることがある。

(4) 適用上の注意

排便困難や便秘を防ぐため、検査後必要に応じ水分の摂取・下剤投与等の処置をすること。

(注腸)

(1) 次の患者には投与しないこと

- 1) 腸管の穿孔又はその疑いのある患者
- 2) 腸管に急性出血のある患者
- 3) 全身衰弱の強い患者

(2) 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 腸管に瘻孔又はその疑いのある患者
- 2) 穿孔を生ずるおそれのある腸疾患（虫垂炎、憩室炎、潰瘍性大腸炎、腸重積症、腫瘍、寄生虫感染等）のある患者

(3) 副作用

消化管 排便困難、便秘、一過性の下痢・腹痛、肛門部痛・出血等の症状があらわれることがある。

(4) 適用上の注意

排便困難や便秘を防ぐため、検査後必要に応じ水分の摂取・下剤投与等の処置をすること。

販売名（会社名）

アイオニックゾルー80、同100、パロスパース、同W、同エニマセット（堀井薬品）、ウムブラゾルーA、バリトゲン、同ゾル、同-デラックス、同ゾル G、硫酸バリウム、同ペースト、流動ペースト（伏見製薬所）、ゾルパウダー、硫酸バリウム、リュウバリ・ゾルA、同B、同C、同E、同R、同S（丸石製薬）、テストリンA、同B、同C（幸和薬品）、ネオダルムゾル、ネオバルギン共成、バムスターP、同S70、同S100、同S130、バルギンS2号、同S4号、同S5号、同Sゾル3号、同SY（共成製薬）、ハセバール、バリエース・ゾル、同「コンク」、同G、同100（東洋製薬化成）、バリケートR、同S、同F（大塚製薬工場）、バリックスD、同M、同R（三丸製薬）、バリトップ75、同90、同100、同110、同120、同P（驛化学）、バリトン、同ゾル、硫酸バリウム（大日本製薬）、パレックスコートS、パレックスモルト、同S、同S-100（東邦化学研）、ベストバルP（ベストバル）、硫酸バリウム（保栄薬工）

## 〔医療用配合剤〕

### ヨードミド・メグルミン・水酸化ナトリウム配合剤

(ヨードミドナトリウムメグルミン注射用)

#### 評価判定を行った処方

(20ml中)

ヨードミド	12.558 g
メグルミン	3.318 g
水酸化ナトリウム	0.12 g

#### 効能・効果

静脈性尿路撮影，逆行性尿路撮影，血管心臓撮影（肺血管撮影を含む），大動脈撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，精のう腺撮影

#### 用法・用量

通常成人1回下記量を使用する。なお，年齢，体重，症状，目的により適宜増減する。

静脈性尿路撮影：20～40ml

逆行性尿路撮影：5～100ml

血管心臓撮影（肺血管撮影を含む）：20～80ml

大動脈撮影：30～50ml

選択的血管撮影：5～40ml

四肢血管撮影：20～50ml

精のう腺撮影：1～4 ml

#### 使用上の注意

##### 警告

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

#### (1) 一般的注意

1) ショックなどの反応を予測するため，使用に際しては，十分な問診を行うとともに，あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても，使用に際して過敏反応を示すことがある。また，テスト実施時にまれに過敏反応を示すことがあるので，このような場合には，ただちに投与を中止し，適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応（悪心・嘔吐，せき，くしゃみ，

あくび，頭痛等）が進展し，重篤なショック症状に至る場合があるので，使用後も患者の状態を観察すること。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

- 1) ヨード過敏症の既往歴のある患者
- 2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが，特に必要とする場合には慎重に投与すること

- 1) 一般状態の極度に悪い患者
- 2) 重篤な心障害のある患者（やむをえず血管心臓造影を行う場合には慎重に行うこと。）
- 3) 重篤な肝障害のある患者
- 4) 重篤な腎障害（無尿等）のある患者
- 5) 急性肺炎の患者
- 6) マクログロブリン血症，多発性骨髄腫の患者
- 7) テタニーのある患者
- 8) 褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者（血圧上昇発作が起こるので逆行性静脈造影は避けること。やむをえず動脈より注入する場合には，静脈確保の上，フェントールアミン等の $\alpha$ -遮断薬を投与し，患者の状態を十分観察しながら慎重に投与すること。）

#### (4) 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 本人又は両親，兄弟に気管支喘息，発疹，じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者
- 2) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- 3) 脱水症状のある患者
- 4) 高血圧症の患者
- 5) 動脈硬化のある患者
- 6) 糖尿病の患者
- 7) 甲状腺疾患のある患者
- 8) 幼・小児及び高齢者

#### (5) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので，観察を十分に行い，必要に応じ適切な処置を行うこと。

また，軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合がありますので，観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 次のような症状があらわれることがあるので，観察を十分に行い，必要に応じ適切な処置を行うこと。

ア 皮膚 ときにじん麻疹，発赤，紅潮，痒痒感

イ 循環器 ときに心悸亢進，また，まれに血圧低下

ウ 呼吸器 ときにせき、くしゃみ、また、まれに呼吸困難、喘息発作

エ 消化器 悪心・嘔吐、また、ときに口渇

オ その他 熱感、ときに不快感、胸部苦悶感、悪寒、また、まれに眼瞼浮腫

3) 精神神経系 ときに頭痛、頭重等の症状があらわれることがある。

4) 循環器 まれに不整脈等の症状があらわれることがある。

5) 腎臓 腎不全等の症状があらわれることがある。

#### (6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

#### (7) 臨床検査値への影響

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。(検査値に影響を及ぼすことがある。)

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

#### (8) 適用上の注意

1) 脊髓造影には使用しないこと。  
2) 静脈内投与により血管痛、血栓性静脈炎があらわれることがある。

3) 投与前に体温まで温めること。

#### 販売名(会社名)

コンラキシンH(武田薬品)

### アミドトリゾ酸・水酸化ナトリウム・メグルミン配合剤(1)(アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン注射液)

#### 評価判定を行った処方

(1000ml中)

アミドトリゾ酸(無水物として) 522.77 g

水酸化ナトリウム 25.16 g

メグルミン 43.43 g

#### 効能・効果

静脈性尿路撮影、大動脈撮影、四肢血管撮影、経皮経

#### 肝胆道撮影

#### 用法・用量

通常成人1回下記量を使用する。なお、年齢、体重、症状、目的により適宜増減する。

静脈性尿路撮影 : 25ml

大動脈撮影 : 30~50ml

四肢血管撮影 : 20~50ml

経皮経肝胆道撮影 : 25~50ml

#### 使用上の注意

#### 警告

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

#### (1) 一般的注意

1) ショックなどの反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うとともに、あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても、使用に際して過敏反応を示すことがある。また、テスト実施時にまれに過敏反応を示すことがあるので、このような場合には、ただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応(悪心・嘔吐、せき、くしゃみ、あくび、頭痛等)が進展し、重篤なショック症状に至る場合があるので、使用後も患者の状態を観察すること。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

1) ヨード過敏症の既往歴のある患者

2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること

1) 一般状態の極度に悪い患者

2) 重篤な心障害のある患者

3) 重篤な肝障害のある患者

4) 重篤な腎障害(無尿等)のある患者

5) 急性肺炎の患者

6) マクログロブリン血症、多発性骨髄腫の患者

7) テタニーのある患者

8) 褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者(血圧上昇発作が起こるので逆行性静脈造影は避けること。やむをえず動脈より注入する場合には、静脈確保の上、フェントールアミン等の $\alpha$ -遮断薬を投与し、患者の

状態を十分観察しながら慎重に投与すること。)

(4) 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起しやすい体質を有する患者
- 2) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- 3) 脱水症状のある患者
- 4) 高血圧症の患者
- 5) 動脈硬化のある患者
- 6) 糖尿病の患者
- 7) 甲状腺疾患のある患者
- 8) 幼・小児及び高齢者

(5) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合がありますので、観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 次のような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

ア 皮膚 ときにじん麻疹、発疹、発赤、紅潮、掻痒感

イ 循環器 まれに心悸亢進、血圧低下

ウ 呼吸器 ときにせき、また、まれに呼吸困難、喘息発作、頻呼吸、咽頭不快感、くしゃみ

エ 消化器 ときに悪心・嘔吐、また、まれに口渇

オ その他 熱感、ときに悪寒、また、まれに胸部苦悶感、あくび、眼瞼浮腫

3) 精神神経系 ときに頭痛、また、まれに不安感、虚脱等の症状があらわれることがある。

4) 循環器 まれに不整脈等の症状があらわれることがある。

5) 腎臓 腎不全等の症状があらわれることがある。

(6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

(7) 臨床検査値への影響

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。(検査値に影響を及ぼすことがある。)

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

(8) 適用上の注意

- 1) 脊髓造影には使用しないこと。
- 2) 静脈内投与により血管痛、血栓性静脈炎があらわれることがある。
- 3) 投与前に体温まで温めること。

販売名(会社名)

ウロビゾン(日本シェーリング)

アミドトリゾ酸・水酸化ナトリウム・メグルミン配合剤(2)(アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン注射液)

評価判定を行った処方

(1000ml中)

アミドトリゾ酸(無水物として)	471.78 g
水酸化ナトリウム	5.03 g
メグルミン	125.46 g

効能・効果

静脈性尿路撮影、逆行性尿路撮影、脳血管撮影、血管心臓撮影(肺血管撮影を含む)、選択的血管撮影、四肢血管撮影、内視鏡の逆行性膵胆管撮影、経皮経肝胆道撮影、関節撮影、コンピュータ断層撮影における造影

用法・用量

通常成人1回下記量を使用する。なお、年齢、体重、症状、目的により適宜増減する。

静脈性尿路撮影	: 20~100ml
(投与するときは、適宜、点滴静注などを用いる)	
逆行性尿路撮影	: 20~150ml(原液 又は2~4倍希釈)
脳血管撮影	: 8~15ml
血管心臓撮影(肺血管撮影を含む)	: 40~80ml
選択的血管撮影	: 5~40ml
四肢血管撮影	: 20~40ml
内視鏡の逆行性膵胆管撮影	: 20~40ml
経皮経肝胆道撮影	: 20~60ml
関節撮影	: 1~10ml
コンピュータ断層撮影における造影	: 100ml

## 使用上の注意

### 警告

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

#### (1) 一般的注意

1) ショックなどの反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うとともに、あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても、使用に際して過敏反応を示すことがある。また、テスト実施時にまれに過敏反応を示すことがあるので、このような場合には、ただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応（悪心・嘔吐、せき、くしゃみ、あくび、頭痛等）が進展し、重篤なショック症状に至る場合があるので、使用後も患者の状態を観察すること。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

- 1) ヨード過敏症の既往歴のある患者
- 2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること

- 1) 一般状態の極度に悪い患者
- 2) 重篤な心障害のある患者（やむをえず血管心臓造影を行う場合には慎重に行うこと。）
- 3) 重篤な肝障害のある患者
- 4) 重篤な腎障害（無尿等）のある患者
- 5) 急性膵炎の患者
- 6) マクログロブリン血症、多発性骨髄腫の患者
- 7) テタニーのある患者
- 8) 褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者（血圧上昇発作が起こるので逆行性静脈造影は避けること。やむをえず動脈より注入する場合には、静脈確保の上、フェントールアミン等の $\alpha$ -遮断薬を投与し、患者の状態を十分観察しながら慎重に投与すること。）

#### (4) 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者
- 2) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- 3) 脱水症状のある患者

- 4) 高血圧症の患者
- 5) 動脈硬化のある患者
- 6) 糖尿病の患者
- 7) 甲状腺疾患のある患者
- 8) 幼・小児及び高齢者

#### (5) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合がありますので、観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 次のような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

ア 皮膚 ときにじん麻疹、発疹、発赤、紅潮、掻痒感

イ 循環器 まれに心悸亢進、血圧低下

ウ 呼吸器 ときにせき、また、まれに呼吸困難、喘息発作、頻呼吸、咽頭不快感、くしゃみ

エ 消化器 ときに悪心・嘔吐、また、まれに口渇

オ その他 熱感、ときに悪寒、また、まれに胸部苦悶感、あくび、眼瞼浮腫

3) 精神神経系 ときに頭痛、また、まれに不安感、虚脱等の症状があらわれることがある。

4) 循環器 まれに不整脈等の症状があらわれることがある。

5) 腎臓 腎不全等の症状があらわれることがある。

#### (6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をともなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

#### (7) 臨床検査値への影響

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

#### (8) 適用上の注意

- 1) 脊髄造影には使用しないこと。
- 2) 静脈内投与により血管痛、血栓性静脈炎があらわ

れることがある。

3) 投与前に体温まで温めること。

**販売名(会社名)**

ウログラフィン60%(日本シエーリング)

**アミドトリゾ酸・水酸化ナトリウム・メグルミン配合剤(3)(アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン注射液)**

**評価判定を行った処方**

(1000ml中)

アミドトリゾ酸(無水物として) 597.30g  
水酸化ナトリウム 6.29g  
メグルミン 159.24g

**効能・効果**

静脈性尿路撮影, 血管心臓撮影(肺血管撮影を含む), 大動脈撮影, 四肢血管撮影, 経脾門脈撮影, 選択的血管撮影, 唾液腺撮影

**用法・用量**

通常成人1回下記量を使用する。なお, 年齢, 体重, 症状, 目的により適宜増減する。

静脈性尿路撮影 : 20~100ml  
(投与するときは, 適宜, 点滴静注などを用いる)  
血管心臓撮影(肺血管撮影を含む): 40~80ml  
大動脈撮影 : 30~50ml  
四肢血管撮影 : 20~40ml  
経脾門脈撮影 : 40ml  
選択的血管撮影 : 5~40ml  
唾液腺撮影 : 0.5~2ml

**使用上の注意**

**警告**

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

**(1) 一般的注意**

1) ショックなどの反応を予測するため, 使用に際しては, 十分な問診を行うとともに, あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても, 使用に際して過敏反応を示すことがある。また, テスト実施時にまれに過敏反応を示すことがあるので, このよう

な場合には, ただちに投与を中止し, 適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応(悪心・嘔吐, せき, くしゃみ, あくび, 頭痛等)が進展し, 重篤なショック症状に至る場合があるので, 使用後も患者の状態を観察すること。

**(2) 次の患者には投与しないこと**

1) ヨード過敏症の既往歴のある患者

2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

**(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが, 特に必要とする場合には慎重に投与すること**

1) 一般状態の極度に悪い患者

2) 重篤な心障害のある患者(やむをえず血管心臓造影を行う場合には慎重に行うこと。)

3) 重篤な肝障害のある患者

4) 重篤な腎障害(無尿等)のある患者

5) 急性肺炎の患者

6) マクログロブリン血症, 多発性骨髄腫の患者

7) テタニーのある患者

8) 褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者(血圧上昇発作が起こるので逆行性静脈造影は避けること。やむをえず動脈より注入する場合には, 静脈確保の上, フェントールアミン等の $\alpha$ -遮断薬を投与し, 患者の状態を十分観察しながら慎重に投与すること。)

**(4) 次の患者には慎重に投与すること**

1) 本人又は両親, 兄弟に気管支喘息, 発疹, じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

2) 薬物過敏症の既往歴のある患者

3) 脱水症状のある患者

4) 高血圧症の患者

5) 動脈硬化のある患者

6) 糖尿病の患者

7) 甲状腺疾患のある患者

8) 幼・小児及び高齢者

**(5) 副作用**

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので, 観察を十分に行い, 必要に応じ適切な処置を行うこと。

また, 軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合があるので, 観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 次のような症状があらわれることがある

ので、観察を十分にいき、必要に応じ適切な処置を行うこと。

ア 皮膚 ときにじん麻疹、発疹、発赤、紅潮、瘙癢感

イ 循環器 まれに心悸亢進、血圧低下

ウ 呼吸器 ときにせき、また、まれに呼吸困難、喘息発作、頻呼吸、咽頭不快感、くしゃみ

エ 消化器 ときに悪心・嘔吐、また、まれに口渇

オ その他 熱感、ときに悪寒、また、まれに胸部苦悶感、あくび、眼瞼浮腫

3) 精神神経系 ときに頭痛、また、まれに不安感、虚脱等の症状があらわれることがある。

4) 循環器 まれに不整脈等の症状があらわれることがある。

5) 腎臓 腎不全等の症状があらわれることがある。

#### (6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

#### (7) 臨床検査値への影響

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。(検査値に影響を及ぼすことがある。)

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

#### (8) 適用上の注意

- 1) 脊髄造影には使用しないこと。
- 2) 静脈内投与により血管痛、血栓性静脈炎があらわれることがある。
- 3) 投与前に体温まで温めること。

#### 販売名(会社名)

ウログラフィン76%(日本ゼーリング)

### アミドトリゾ酸・水酸化ナトリウム・メグルミン配合剤(4)

#### 評価判定を行った処方

(1 ml中)

アミドトリゾ酸(無水物として) 597.4 mg

水酸化ナトリウム 6.309mg

メグルミン 159.2 mg

#### 効能・効果

##### 消化管撮影

下記の場合における消化管造影

- 1) 狭窄の疑いのあるとき
- 2) 急性出血
- 3) 穿孔の恐れのあるとき(消化器潰瘍、憩室)
- 4) その他、外科手術を要する急性症状時
- 5) 胃及び腸切除後(穿孔の危険、縫合不全)
- 6) 内視鏡検査法実施前の異物及び腫瘍の造影
- 7) 胃・腸瘻孔の造影

#### 用法・用量

(経口)

通常成人1回60ml(レリーフ造影には、10~30ml)を経口投与する。

(注腸)

通常成人3~4倍量の水で希釈し、最高500mlを注腸投与する。

#### 使用上の注意

##### (1) 一般的注意

1) ヨード系造影剤に過敏な反応を予測するため、使用に際しては十分な問診を行うとともにあらかじめヨード過敏症テストを行うこと。(テストは少量の本剤を数分間口内に含ませておき、口腔粘膜に腫脹等の反応があれば投与しないこと。)

2) 高張液であるので、水又は電解質代謝に異常のある患者に投与する場合は、あらかじめ適切な処置を行うこと。

##### (2) 次の患者には投与しないこと

ヨード過敏症の既往歴のある患者

##### (3) 次の患者には慎重に投与すること

1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

2) 腸炎又は結腸炎のある患者(症状が一過性に悪化することがある。)

3) 脱水症のある患者

(4) 副作用

1) 過敏症 ときに痒痒感、また、まれにじん麻疹等の症状があらわれることがある。

2) 消化器 下痢、ときに悪心・嘔吐、また、まれに腹痛、腹部不快感等の症状があらわれることがある。

(5) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

(6) 臨床検査値への影響

甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。(検査値に影響を及ぼすことがある。)

(7) 乳児・小児への投与

1) 高張液であるため、乳児・小児ではあらかじめ水・電解質代謝を正常にしたのち、投与すること。

2) 高張性で腸よりほとんど吸収されないため、乳児・小児には常用量以上の投与はしないこと。

(8) 適用上の注意

静脈内に注射しないこと。

販売名(会社名)

ガストログラフオン(日本シエーリング)

アミドトリゾ酸メグルミン・アミドトリゾ酸ナトリウム配合剤(1)

評価判定を行った処方

(1 ml中)

アミドトリゾ酸メグルミン 521.1mg

アミドトリゾ酸ナトリウム 78.9mg

効能・効果

静脈性尿路撮影、脳血管撮影、血管心臓撮影(肺血管撮影を含む)、四肢血管撮影、関節撮影

\*\*下記の適応については、有効性と配合意義は認められるが、他に適切な薬剤があるので有用性は認められない。

経皮的腎盂撮影、術中・術後の胆管撮影

用法・用量

通常成人1回下記量を使用する。なお、年齢、体重、症状、目的により適宜増減する。

静脈性尿路撮影：20～40ml

脳血管撮影：8～15ml

血管心臓撮影(肺血管撮影を含む)：40～80ml

四肢血管撮影：20～40ml

関節撮影：1～10ml

使用上の注意

警告

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

(1) 一般的注意

1) ショックなどの反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うとともに、あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても、使用に際して過敏反応を示すことがある。また、テスト実施時にまれに過敏反応を示すことがあるので、このような場合には、ただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応(悪心・嘔吐、せき、くしゃみ、あくび、頭痛等)が進展し、重篤なショック症状に至る場合があるので、使用後も患者の状態を観察すること。

(2) 次の患者には投与しないこと

1) ヨード過敏症の既往歴のある患者

2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること

1) 一般状態の極度に悪い患者

2) 重篤な心障害のある患者(やむをえず血管心臓造影を行う場合には慎重に行うこと。)

3) 重篤な肝障害のある患者

4) 重篤な腎障害(無尿等)のある患者

5) 急性膵炎の患者

6) マクログロブリン血症、多発性骨髄腫の患者

7) テタニーのある患者

8) 褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者(血圧上昇発作が起こるので逆行性静脈造影は避けること。やむをえず動脈より注入する場合には、静脈確保の

上、フェントールアミン等の $\alpha$ -遮断薬を投与し、患者の状態を十分観察しながら慎重に投与すること。）

**(4) 次の患者には慎重に投与すること**

- 1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者
- 2) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- 3) 脱水症状のある患者
- 4) 高血圧症の患者
- 5) 動脈硬化のある患者
- 6) 糖尿病の患者
- 7) 甲状腺疾患のある患者
- 8) 幼・小児及び高齢者

**(5) 副作用**

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合がありますので、観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 次のような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

ア 皮膚 ときにじん麻疹、発疹、発赤、紅潮、掻痒感

イ 循環器 まれに心悸亢進、血圧低下

ウ 呼吸器 ときにせき、また、まれに呼吸困難、喘息発作、頻呼吸、咽頭不快感、くしゃみ

エ 消化器 ときに悪心・嘔吐、また、まれに口渇

オ その他 熱感、ときに悪寒、また、まれに胸部苦悶感、あくび、眼瞼浮腫

3) 精神神経系 ときに頭痛、また、まれに不安感、虚脱等の症状があらわれることがある。

4) 循環器 まれに不整脈等の症状があらわれることがある。

5) 腎臓 腎不全等の症状があらわれることがある。

**(6) 妊婦への投与**

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまらうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合のみ投与すること。

**(7) 臨床検査値への影響**

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必

要な場合には、本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

**(8) 適用上の注意**

1) 脊髓造影には使用しないこと。

2) 静脈内投与により血管痛、血栓性静脈炎があらわれることがある。

3) 投与前に体温まで温めること。

**販売名（会社名）**

ウロトラスト60%（持田製薬）

**アミドトリゾ酸メグルミン・アミドトリゾ酸ナトリウム配合剤（2）**

**評価判定を行った処方**

（1 ml中）

アミドトリゾ酸メグルミン 651.35mg

アミドトリゾ酸ナトリウム 98.65mg

**効能・効果**

静脈性尿路撮影、血管心臓撮影（肺血管撮影を含む）、大動脈撮影、四肢血管撮影、経脾門脈撮影、唾液腺撮影

\*\*下記の適応については、有効性と配合意義は認められるが、他に適切な薬剤があるので有用性は認められない。

経皮的腎盂撮影、子宮・卵管撮影

**用法・用量**

通常成人1回下記量を使用する。なお、年齢、体重、症状、目的により適宜増減する。

静脈性尿路撮影：20～40ml

血管心臓撮影（肺血管撮影を含む）：40～80ml

大動脈撮影：30～50ml

四肢血管撮影：20～40ml

経脾門脈撮影：40ml

唾液腺撮影：0.5～2 ml

**使用上の注意**

**警告**

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

#### (1) 一般的注意

1) ショックなどの反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うとともに、あらかじめヨード過敏症テストを行うことが望ましい。

2) ヨード過敏症テストの結果が陰性であっても、使用に際して過敏反応を示すことがある。また、テスト実施時にまれに過敏反応を示すことがあるので、このような場合には、ただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

4) 軽度の全身反応（悪心・嘔吐、せき、くしゃみ、あくび、頭痛等）が進展し、重篤なショック症状に至る場合があるので、使用後も患者の状態を観察すること。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

1) ヨード過敏症の既往歴のある患者

2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

(3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること

1) 一般状態の極度に悪い患者

2) 重篤な心障害のある患者（やむをえず血管心臓造影を行う場合には慎重に行うこと。）

3) 重篤な肝障害のある患者

4) 重篤な腎障害（無尿等）のある患者

5) 急性膵炎の患者

6) マクログロブリン血症、多発性骨髄腫の患者

7) テタニーのある患者

8) 褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者（血圧上昇発作が起こるので逆行性静脈造影は避けること。やむをえず動脈より注入する場合には、静脈確保の上、フェントールアミン等の $\alpha$ -遮断薬を投与し、患者の状態を十分観察しながら慎重に投与すること。）

#### (4) 次の患者には慎重に投与すること

1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

2) 薬物過敏症の既往歴のある患者

3) 脱水症状のある患者

4) 高血圧症の患者

5) 動脈硬化のある患者

6) 糖尿病の患者

7) 甲状腺疾患のある患者

8) 幼・小児及び高齢者

#### (5) 副作用

1) ショック まれにショック症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する場合があるので、観察を十分に行うこと。

2) 過敏症 次のような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

ア 皮膚 ときにじん麻疹、発疹、発赤、紅潮、癢痒感

イ 循環器 まれに心悸亢進、血圧低下

ウ 呼吸器 ときにせき、また、まれに呼吸困難、喘息発作、頻呼吸、咽頭不快感、くしゃみ

エ 消化器 ときに悪心・嘔吐、また、まれに口渇

オ その他 熱感、ときに悪寒、また、まれに胸部苦悶感、あくび、眼瞼浮腫

3) 精神神経系 ときに不安感、頭痛、虚脱等の症状があらわれることがある。

4) 循環器 ときに不整脈等の症状があらわれることがある。

5) 腎臓 腎不全等の症状があらわれることがある。

#### (6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまらうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

#### (7) 臨床検査値への影響

1) 甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

2) スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

#### (8) 適用上の注意

1) 脊髄造影には使用しないこと。

2) 静脈内投与により血管痛、血栓性静脈炎があらわれることがある。

3) 投与前に体温まで温めること。

#### 販売名（会社名）

ウロトラスト75%（持田製薬）

## イオピドール・イオピドン配合剤

### 評価判定を行った処方

(100ml中)

イオピドール 46g

イオピドン 30.5g

### 効能・効果

気管支撮影

### 用法・用量

一般気管支撮影方法と同様の方法によって気管支に注入する。

通常一側肺に対する用量は15mlである。

### 使用上の注意

#### (1) 一般的注意

1) ヨード系造影剤に過敏な反応を予測するため、使用に際しては、十分な問診を行うこと。

2) あらかじめ救急用の医薬品・器具を準備しておくこと。

#### (2) 次の患者には投与しないこと

1) ヨード過敏症の既往歴のある患者

2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

#### (3) 次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること

1) 一般状態の極度に悪い患者

2) 重篤な心障害のある患者

3) 重篤な肝障害のある患者

4) 重篤な腎障害（無尿等）のある患者

5) 呼吸機能の著しく低下している患者

6) 急性気管支炎、肺炎、滲出性肺結核の患者

7) 咯血直後の患者

#### (4) 次の患者には慎重に投与すること

1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、じん麻疹等のアレルギーを起こしやすい体質を有する患者

2) 甲状腺疾患のある患者

3) 幼・小児及び高齢者

#### (5) 副作用

1) **過敏症** ときに発疹、鼻・咽喉灼熱感、関節痛、眼瞼浮腫等の症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

2) **呼吸器** 咯痰、ときに血痰、胸痛、咽喉頭痛、気管支痙攣、せき・喘鳴、また、まれに肺炎等の症状があらわれることがある。

3) **精神神経系** 発熱、ときに倦怠感、また、まれに

めまい等の症状があらわれることがある。

4) **消化器** ときに食欲不振、また、まれに下痢等の症状があらわれることがある。

#### (6) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をともなうので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合のみ投与すること。

#### (7) 臨床検査値への影響

甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる診断が必要な場合には、本剤の投与前に実施すること。（検査値に影響を及ぼすことがある。）

#### (8) 適用上の注意

1) 静脈内に注入しないように注意すること。

2) 小気管支の閉塞による肺拡張不全、肺胞内侵入と停滞による発熱等を起こすおそれがあるので、本剤投与の際は使用量、注入速度等について十分注意すること。

3) 両側気管支造影を行う場合には、片側ずつ造影し、その間隔は5～6日あけること。

4) 造影剤注入時、咳嗽反射を避けるような適切な処置を行うこと。

5) 気管支造影後、本剤の排出を促進するため、できる限り体位喀出等の処置を行うこと。

6) 用時振盪し、均一な懸濁液としてから使用すること。

### 販売名（会社名）

ハイトラスト（小玉）

## 炭酸水素ナトリウム・フマル酸一ナトリウム配合剤

### 評価判定を行った処方

(1錠中)

炭酸水素ナトリウム 25mg

フマル酸一ナトリウム 52.539mg

### 効能・効果

胃および十二指腸の透視・撮影の造影補助

### 用法・用量

透視開始に際して、造影剤投与開始直前あるいは投与開始後、年齢、胃内容積の個人差、造影の体位に応じ

て、約100～400mlの炭酸ガスの発生量に相当する量を、少量の水または、造影剤と共に経口投与する。

**販売名（会社名）**

ルフトゲン錠（中外製薬）

炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤（1）

**評価判定を行った処方**

（1000 g中）

炭酸水素ナトリウム 539 g

酒石酸 399 g

**効能・効果**

胃および十二指腸の透視・撮影の造影補助

**用法・用量**

透視開始に際して、造影剤投与開始直前あるいは投与開始後、年齢、胃内容積の個人差、造影の体位に応じて、約100～400mlの炭酸ガスの発生量に相当する量を、少量の水または、造影剤と共に経口投与する。

**販売名（会社名）**

バリトゲン発泡散（伏見製薬）

炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤（2）

**評価判定を行った処方**

（3 g中）

炭酸水素ナトリウム 1,050mg

酒石酸 1,050mg

**効能・効果**

胃および十二指腸の透視・撮影の造影補助

**用法・用量**

透視開始に際して、造影剤投与開始直前あるいは投与開始後、年齢、胃内容積の個人差、造影の体位に応じて、約100～400mlの炭酸ガスの発生量に相当する量を、少量の水または、造影剤と共に経口投与する。

**販売名（会社名）**

ゾル発泡顆粒（丸石製薬）

炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤（3）

**評価判定を行った処方**

（1錠中）

炭酸水素ナトリウム 52.5mg

酒石酸 52.5mg

**効能・効果**

胃および十二指腸の透視・撮影の造影補助

**用法・用量**

透視開始に際して、造影剤投与開始直前あるいは投与開始後、年齢、胃内容積の個人差、造影の体位に応じて、約100～400mlの炭酸ガスの発生量に相当する量を、少量の水または、造影剤と共に経口投与する。

**販売名（会社名）**

ゾル発泡錠（丸石製薬）

炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤（4）

**評価判定を行った処方**

（1 g中）

炭酸水素ナトリウム 490mg

酒石酸 490mg

**効能・効果**

胃および十二指腸の透視・撮影の造影補助

**用法・用量**

透視開始に際して、造影剤投与開始直前あるいは投与開始後、年齢、胃内容積の個人差、造影の体位に応じて、約100～400mlの炭酸ガスの発生量に相当する量を、少量の水または、造影剤と共に経口投与する。

**販売名（会社名）**

ガストラストK（東邦化学）

炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤（5）

**評価判定を行った処方**

（1錠中）

炭酸水素ナトリウム 12.25mg

酒石酸 12.25mg

**効能・効果**

胃および十二指腸の透視・撮影の造影補助

**用法・用量**

透視開始に際して、造影剤投与開始直前あるいは投与開始後、年齢、胃内容積の個人差、造影の体位に応じて、約100～400mlの炭酸ガスの発生量に相当する量を、少量の水または、造影剤と共に経口投与する。

**販売名（会社名）**

ガストラストT（東邦化学）

炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤（6）

**評価判定を行った処方**

（1g中）

炭酸水素ナトリウム 480mg

酒石酸 480mg

**効能・効果**

胃および十二指腸の透視・撮影の造影補助

**用法・用量**

透視開始に際して、造影剤投与開始直前あるいは投与

開始後、年齢、胃内容積の個人差、造影の体位に応じて、約100～400mlの炭酸ガスの発生量に相当する量を、少量の水または、造影剤と共に経口投与する。

**販売名（会社名）**

ガストロルフト顆粒（東和製薬）

炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤（7）

**評価判定を行った処方**

（1錠中）

炭酸水素ナトリウム 48mg

酒石酸 48mg

**効能・効果**

胃および十二指腸の透視・撮影の造影の補助

**用法・用量**

透視開始に際して、造影剤投与開始直前あるいは投与開始後、年齢、胃内容積の個人差、造影の体位に応じて、約100～400mlの炭酸ガスの発生量に相当する量を、少量の水または、造影剤と共に経口投与する。

**販売名（会社名）**

ガストロルフト錠（東和製薬）

## ◇…外皮用剤…◇

### カンフル

#### 効能・効果

(外用)

下記疾患における局所刺激，血行の改善，消炎，鎮痛，鎮痒

筋肉痛，挫傷，打撲，捻挫，凍傷（第1度），凍瘡，皮膚癢痒症

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：

(外用)

神経痛，リウマチ

(経口)

呼吸困難，心臓衰弱

#### 用法・用量

通常，1～10%の軟膏，10%のアルコール溶液，10～20%の植物油溶液又は2～4.5%の石ケンカンフルリニメントとして患部に適量を塗布あるいは塗擦する。

#### ◎使用上の注意

##### (1) 副作用

**過敏症** ときに発赤，発疹等の過敏症状があらわれることがあるので，このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

##### (2) 適用上の注意

- 1) 湿潤面への使用は避けること。
- 2) 眼又は眼の周囲には使用しないこと。〔液剤，軟膏剤，リニメント剤に記載すること。〕

#### 販売名（会社名）

d-カンフル，dl-カンフル（岩城製薬，宮沢製薬），d-カンフル，カンフル精（小堺製薬），d-カンフル，dl-カンフル，カンフル精，プロピルカンファー（ヤクハン製薬），d-カンフル，dl-カンフル，カンフルチンキ「ヤマダ」（山田製薬），兼一カンファノール（カネイチ），カンフル（オリエンタル薬工），カンフル液，同精（山善薬品），カンフル精，ネオカンフル精「ヨシダ」（吉田製薬），カンフル精，同軟膏（東洋製薬），カンフル精，凍傷膏（丸石製薬），カンフル精（保栄薬工），カンフル精シオエ（シオエ製薬），昭和カンフルセー（昭和製薬），「純生」カ

ンフル，純生カンフル精（純生薬品），タツミカンファー（タツミ薬品），東豊カンフルチンキ（東豊薬品），日精・d-カンフル500g，日精・dl-カンフル500g（日本精化），ヒシヤマ樟脳精（菱山製薬），マルコ樟脳精（マルコ薬品）

### イクタモール

#### 効能・効果

(0.5～10%軟膏)

下記皮膚疾患の消炎及び乾燥

湿疹・皮膚炎，痒瘡，顔面皴癩疹，皮膚癢痒症，乾癬，凍傷（第1度），熱傷

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：膿痂疹，毛瘡，尋麻疹，丹毒，皮膚潰瘍，子宮頸炎，腔炎

(5～50%液剤)

筋肉痛，打撲

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：外傷後の関節炎，神経痛，子宮頸炎，腔炎

(8.6%坐剤)

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：消炎，防腐として痔疾に用いる

#### 用法・用量

通常，0.5～10%の軟膏又は5～50%の液剤（塗布剤）として，症状に応じて適量を1日1～数回患部に塗擦あるいは貼布する。

#### ◎使用上の注意

##### (1) 副作用

1) **過敏症** 光線過敏症があらわれることがあるので，このような場合には使用を中止すること。

2) **皮膚** 発疹，刺激感等の症状があらわれることがあるので，このような場合には使用を中止すること。

##### (2) 適用上の注意

眼には使用しないこと。

販売名（会社名）

イクタモール（オリエンタル薬工，日興製薬，フヂミ製薬一保栄薬工，宮沢薬品），イクタモールシオエ，同軟膏シオエ（シオエ製薬），イクタモール，同軟膏「マルイン」（丸石製薬），イクタモール「ヨシダ」，同軟膏（吉田製薬），イクタモール「ヤマゼン」（山善薬品）

## カンタリス

### 効能・効果

（チンキ）

発毛促進，疣贅・鶏眼の除去，その他引赤・皮膚刺激剤あるいは発疱剤として用いる。

（軟膏）

疣贅・鶏眼の除去，その他発疱剤として用いる。

### 用法・用量

（10%チンキ）

発疱剤：通常，そのままを少量患部に塗布する。

引赤・皮膚刺激剤：通常希エタノールで10～100倍にうすめたものを患部に塗布する。

（20%軟膏）

通常，少量を患部に貼布する。

### ◎使用上の注意

#### 1. 一般的注意

病巣以外には使用しないこと。

#### 2. 次の部位には使用しないこと

び爛・創傷皮膚及び粘膜

#### 3. 副作用

1) 長期連用・大量使用 経皮吸収により，腎障害，肝障害，胃腸障害，泌尿生殖器の充血等を起こす可能性があるため，長期間又は広範囲に使用しないこと。

2) 過敏症 過敏症状があらわれることがあるので，このような場合には使用を中止すること。

3) 皮膚 灼熱感，癢痒感等の症状があらわれることがある。

#### 4. 適用上の注意

1) 眼又は眼の周囲に使用しないこと。

2) 経口投与しないこと。

### 販売名（会社名）

カンタリスチンキ（司生堂，東洋製薬），カンタリス軟膏「マルイン」（丸石製薬）

## トウガラシチンキ

### 効能・効果

皮膚刺激剤として下記に用いる。

筋肉痛，凍瘡，凍傷（第1度），育毛

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：

神経痛，リウマチ

経口投与による下記適応

食欲不振，弛緩性消化不良，アルコール性胃炎

### 用法・用量

筋肉痛，凍瘡，凍傷（第1度）には，トウガラシチンキとして，通常，10～40%を添加した液剤，軟膏剤，硬膏剤又はパップ剤を1日1～数回局所に塗布する。

育毛には，トウガラシチンキとして，通常，1～4%を添加した液剤を1日1～数回局所に塗擦する。

### ◎使用上の注意

（1）次の部位には使用しないこと

び爛・創傷皮膚及び粘膜

（2）副作用

皮膚 刺激感，疼痛等の症状があらわれることがある。これらの症状が強くあらわれた場合には濃度を下げるなど適切な処置を行うこと。

（3）適用上の注意

1) 原液のまま使用しないこと。

2) 入浴直後に使用しないよう注意させること。

3) 眼又は眼の周囲に使用しないこと。

### 販売名（会社名）

トウガラシチンキ（岩城製薬，小堺製薬，東海製薬，東洋製薬，日興製薬，菱山製薬，保栄薬工，丸石製薬，山田製薬），トウガラシチンキシオエ（シオエ製薬），トウガラシチンキ「司生堂」（司生堂），トウガラシチンキ「東豊」（東豊薬品），トウガラシチンキ「ヤマゼン」（山善薬品）

## サリチル酸メチル

### 効能・効果

下記における鎮痛・消炎

関節痛，筋肉痛，打撲，捻挫

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：神経痛

**用法・用量**

5%又はそれ以上の濃度の液剤，軟膏剤又はリニメント剤として皮膚局所に塗布する。

**◎使用上の注意**

(1) 次の患者には使用しないこと

本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

(2) 副作用

1) **過敏症** ときに発赤，発疹等の過敏症状があらわれることがあるので，このような場合には使用を中止すること。

2) **大量使用** 頭痛，悪心・嘔吐，食欲不振，頻脈等の症状があらわれることがある。

(3) **適用上の注意**

眼には使用しないこと。

**販売名（会社名）**

サリチル酸メチル（岩城製薬，保栄薬工，宮沢薬品，山田製薬），サリチル酸メチル「東豊」（東豊薬品）

## ◇…循環器官用剤◇…

### カフェイン

#### 効能・効果

ねむけ，倦怠感，腎性浮腫，血管拡張性及び脳圧亢進性頭痛（片頭痛，高血圧性頭痛，カフェイン禁断性頭痛など）

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：麻薬・アルコール・催眠薬等の中枢抑制剤による急性中毒，虚脱，チェーンストークス呼吸，ガス中毒時等の呼吸促進，心機能不全，ジギタリス療法の補助および中毒期の離脱，狭心症

#### 用法・用量

カフェイン（又は無水カフェイン）として，通常成人1回0.1～0.3gを1日2～3回経口投与する。

なお，年齢，症状により適宜増減する。

#### 使用上の注意

(1) 次の患者に連用する場合，観察を十分に行い，慎重に投与すること

- 1) 胃潰瘍又はその既往歴のある患者
- 2) 心疾患のある患者
- 3) 緑内障の患者

#### (2) 副作用

大量投与 振せん，不整脈，虚脱 めまい，不眠，不安 瞳孔散大等の症状があらわれることがある。

#### (3) 妊婦・授乳婦への投与

胎盤を通過し，また，母乳中に容易に移行するので，妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦には長期連用を避けること。

#### 販売名（会社名）

カフェイン，無水カフェイン（岩城製薬，山田製薬），カフェイン（健栄製薬，三晃製薬，白鳥製薬，東洋製薬化成，菱山製薬，保栄薬工，丸石製薬），カフェイン「ヨシダ」（吉田製薬），「純生」カフェイン，「純生」無水カフェイン（純生薬品），無水カフェイン（中北薬品）

### 安息香酸ナトリウムカフェイン

#### 効能・効果

ねむけ，倦怠感，腎性浮腫，血管拡張性及び脳圧亢進性頭痛（片頭痛，高血圧性頭痛，カフェイン禁断性頭痛など）

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：麻薬・アルコール・催眠薬等の中枢抑制剤による急性中毒，虚脱，チェーンストークス呼吸，ガス中毒時等の呼吸促進，心機能不全，ジギタリス療法の補助および中毒期の離脱，狭心症

#### 用法・用量

##### （経口）

安息香酸ナトリウムカフェインとして，通常成人1回0.1～0.6gを1日2～3回経口投与する。

なお，年齢，症状により適宜増減する。

##### （注射）

安息香酸ナトリウムカフェインとして，通常成人1回0.1～0.4gを1日1～3回皮下，筋肉内または静脈内注射する。

なお，年齢，症状により適宜増減する。

#### 使用上の注意

##### （経口）

(1) 次の患者に連用する場合，観察を十分に行い，慎重に投与すること

- 1) 胃潰瘍又はその既往歴のある患者
- 2) 心疾患のある患者
- 3) 緑内障の患者

#### (2) 副作用

大量投与 振せん，頻脈，期外収縮 耳鳴，不眠，不穏等の症状があらわれることがある。

#### (3) 妊婦・授乳婦への投与

カフェインは胎盤を通過し，また，母乳中に容易に移行するので，妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦には長期連用を避けること。

(注射)

(1) 次の患者に連用する場合、観察を十分に行い、慎重に投与すること

- 1) 胃潰瘍又はその既往歴のある患者
- 2) 心疾患のある患者
- 3) 緑内障の患者

(2) 副作用

大量投与 振せん、頻脈、期外収縮、耳鳴、不眠、不穏等の症状があらわれることがある。

(3) 妊婦・授乳婦への投与

カフェインは胎盤を通過し、また、母乳中に容易に移行するので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦には長期連用を避けること。

(4) 適用上の注意

静脈内注射は、できるだけゆっくり行うこと。

販売名(会社名)

安息香酸ナトリウムカフェイン(岩城製薬、健栄製薬、三晃製薬工業、東洋製薬化成、中北薬品、保栄薬工、丸石製薬、山田製薬)、安息香酸ナトリウムカフェイン、シオエ(シオエ製薬)、安息香酸ナトリウムカフェイン「ヤマゼン」(山善薬品)、安ナカ(白鳥製薬-白鳥薬品)、「純生」アンナカ(純生薬品)、アンナカ「ヨシダ」(吉田製薬)、安息香酸ナトリウムカフェイン注射液(扶桑薬工)、安息香酸ナトリウムカフェイン注射液「武田薬化」(武田薬化学研)、安ナカ注(日新製薬)、アンナカ注「ヒカリ」10%、同注「ヒカリ」20%(光製薬)

## アセタゾラミド

効能・効果

(経口)

緑内障、肝性浮腫、肺気腫における呼吸性アシドーシスの改善、てんかん(他の抗てんかん薬で効果不十分な場合に付加)、心性浮腫、妊娠中毒症・妊娠浮腫、メニエル病及びメニエル症候群、月経前緊張症

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：腰椎麻酔後遺性頭痛

(徐放性製剤)

緑内障

(注射)

緑内障、肺気腫における呼吸性アシドーシスの改善、てんかん(他の抗てんかん薬で効果不十分な場合に付加)、メニエル病及びメニエル症候群

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：うっ血性心不全時の浮腫、腹水、妊娠中毒症(妊娠浮腫・妊娠腎・子癩前駆症)、月経前緊張症、腰椎麻酔後遺性頭痛

用法・用量

(経口)

緑内障には、アセタゾラミドとして、通常成人1日250mg～1gを分割経口投与する。

てんかんには、アセタゾラミドとして、通常成人1日250～750mgを分割経口投与する。

肺気腫における呼吸性アシドーシスの改善、心性浮腫、肝性浮腫、妊娠中毒症・妊娠浮腫には、アセタゾラミドとして、通常成人1日1回250～500mgを経口投与する。

月経前緊張症には、アセタゾラミドとして、通常成人1日1回125～375mgを月経前5～10日間又は症状が発現した日から経口投与する。

メニエル病及びメニエル症候群には、アセタゾラミドとして、通常成人1日250～750mgを経口投与する。

なお、いずれの場合も、年齢、症状により適宜増減する。

(徐放性製剤)

アセタゾラミドとして、通常成人1日500mg～1gを経口投与する。1gの場合には500mgずつ12時間ごとに分割投与する。

(注射)

緑内障には、アセタゾラミドとして、通常成人1日250mg～1gを分割して静脈内又は筋肉内注射する。

てんかんには、アセタゾラミドとして、通常成人1日250～750mgを分割して静脈内又は筋肉内注射する。

肺気腫における呼吸性アシドーシスの改善には、アセタゾラミドとして、通常成人1日1回250～500mgを静脈内又は筋肉内注射する。

メニエル病及びメニエル症候群には、アセタゾラミドとして、通常成人1日1回250～750mgを静脈内又は筋肉内注射する。

なお、いずれの場合も、年齢、症状により適宜増減す

る。

## ◎使用上の注意

(経口)

### (1) 一般的注意

連用する場合、電解質失調があらわれることがあるので定期的に検査を行うこと。

### (2) 次の患者には投与しないこと

- 1) 無尿の患者
- 2) 急性腎不全の患者
- 3) 高クロール血症性アシドーシス、体液中のナトリウム・カリウムが明らかに減少している患者
- 4) 副腎機能不全・アジソン病のある患者

### (3) 次の患者には長期投与しないこと

慢性閉塞隅角緑内障の患者

### (4) 次の患者には慎重に投与すること

1) 進行した肝硬変症の患者（肝性昏睡を誘発することがある。）

2) 心疾患のある高齢者、重篤な冠硬化症又は脳動脈硬化症の患者（急激な利尿があらわれた場合、急速な血漿量減少、血液濃縮をきたし、血栓塞栓症を誘発するおそれがある。）

- 3) 重篤な腎障害のある患者
- 4) 肝疾患・肝機能障害のある患者
- 5) ジギタリス剤、糖質副腎皮質ホルモン剤又はACTHの投与を受けている患者

THの投与を受けている患者

- 6) 減塩療法時
- 7) 乳児（乳児は電解質バランスがくずれやすい。）

### (5) 副作用

1) **血液** まれに無顆粒球症、血小板減少、白血球減少、溶血性貧血、骨髄機能低下等の血液障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止すること。

2) **代謝異常** ときに代謝性アシドーシス、血清カリウムの低下等の電解質失調があらわれることがある。また、まれに高尿酸血症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休業等の適切な処置を行うこと。

3) **過敏症** まれに発疹等の過敏症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

4) **消化器** ときには食欲不振、悪心・嘔吐、下痢、

また、まれに腹痛、便秘等の症状があらわれることがある。

5) **精神神経系** ときにめまい、頭痛、知覚異常、興奮、いらいら感、うつ状態、傾眠、また、まれに精神錯乱、見当識障害等の症状があらわれることがある。

6) **眼** まれに一過性近視等の症状があらわれることがある。

7) **腎・尿路系** ときに腎・尿路結石、また、まれに急性腎不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、血尿、結晶尿、乏尿等の症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

8) **その他** ときに倦怠感、また、まれに発熱があらわれることがある。

### (6) 妊婦への投与

動物実験で催奇形作用が報告されているので、妊娠初期又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

### (7) 相互作用

1) 他の降圧剤の投与を受けている患者に本剤を併用した場合には降圧作用を増強するおそれがあるので、降圧剤の用量調節等に注意すること。

2) ジギタリスの心臓に対する作用を増強するおそれがあるので、併用する場合には慎重に投与すること。

3) 糖質副腎皮質ホルモン剤又はACTHとの併用により、過剰のカリウム放出を起こすおそれがあるので、併用する場合には慎重に投与すること。

4) 塩化アンモニウムと併用すると本剤の効果が阻害されるので注意すること。

5) 大量のビタミンCと併用すると腎・尿路結石が起りやすいので注意すること。

6) フェノバルビタール、フェニトイン等との併用例で、クル病、骨軟化症があらわれたとの報告があるので、慎重に投与すること。

### (8) その他

夜間の休息がとくに必要な患者には、夜間の排尿を避けるため、午前中に投与することが望ましい。

(注射)

### (1) 一般的注意

連用する場合、電解質失調があらわれることがあるので定期的に検査を行うこと。

(2) 次の患者には投与しないこと

- 1) 無尿の患者
- 2) 急性腎不全の患者
- 3) 高クロール血症性アンドロース、体液中のナトリウム・カリウムが明らかに減少している患者
- 4) 副腎機能不全・アジソン病のある患者

(3) 次の患者には長期投与しないこと

慢性閉塞隅角緑内障の患者

(4) 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 進行した肝硬変症の患者（肝性昏睡を誘発することがある。）
- 2) 心疾患のある高齢者、重篤な冠硬化症又は脳動脈硬化症の患者（急激な利尿があらわれた場合、急速な血漿量減少、血液濃縮をきたし、血栓塞栓症を誘発するおそれがある。）
- 3) 重篤な腎障害のある患者
- 4) 肝疾患・肝機能障害のある患者
- 5) ジギタリス剤、糖質副腎皮質ホルモン剤又はACTHの投与を受けている患者
- 6) 減塩療法時
- 7) 乳児（乳児は電解質バランスがくずれやすい。）

(5) 副作用

- 1) 血液 まれに無顆粒球症、血小板減少、白血球減少、溶血性貧血、骨髓機能低下等の血液障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止すること。
- 2) 代謝異常 ときに代謝性アンドロース、血清カリウムの低下等の電解質失調があらわれることがある。また、まれに高尿酸血症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休薬等の適切な処置を行うこと。
- 3) 過敏症 まれに発疹等の過敏症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
- 4) 消化器 ときに食欲不振、悪心・嘔吐、下痢、また、まれに腹痛、便秘等の症状があらわれることがある。
- 5) 精神神経系 ときにめまい、頭痛、知覚異常、興奮、いらいら感、うつ状態、傾眠、また、まれに精神錯

乱、見当識障害等の症状があらわれることがある。

6) 眼 まれに一過性近視等の症状があらわれることがある。

7) 腎・尿路系 ときに腎・尿路結石、また、まれに急性腎不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、血尿、結晶尿、乏尿等の症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

8) その他 ときに倦怠感、また、まれに発熱があらわれることがある。

(6) 妊婦への投与

動物実験で催奇形作用が報告されているので、妊娠初期又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

(7) 相互作用

1) 他の降圧剤の投与をうけている患者に本剤を併用した場合には降圧作用を増強するおそれがあるので、降圧剤の用量調節等にご注意すること。

2) ジギタリスの心臓に対する作用を増強するおそれがあるので、併用する場合には慎重に投与すること。

3) 糖質副腎皮質ホルモン剤又はACTHとの併用により、過剰のカリウム放出を起こすおそれがあるので、併用する場合には慎重に投与すること。

4) 塩化アンモニウムと併用すると本剤の効果が阻害されるので注意すること。

5) 大量のビタミンCと併用すると腎・尿路結石が起こりやすいので注意すること。

6) フェノバルビタール、フェニトイン等との併用例で、クル病、骨軟化症があらわれたとの報告があるので、慎重に投与すること。

(8) 適用上の注意

1) 経口投与が困難な場合や、緊急の場合、また、経口投与で効果が不十分と考えられる場合のみ行うこと。

また、投与経路は静脈内注射を原則とし、他剤との混注は避けること。

なお、経口投与が可能で効果が十分と判断された場合には速やかに経口投与に切りかえること。

2) 静脈内注射により、血管痛があらわれることがあるので、注射はできるだけゆっくり行うこと。

3) 筋肉内注射により、注射部位に疼痛があらわれることがある。

(9) その他

夜間の休息がとくに必要な患者には、夜間の排尿を避けるため、午前中に投与することが望ましい。

**販売名(会社名)**

アセタゾールアミド錠「ミタ」(東洋ファルマー)、  
アセタモックス(東菱薬品一参天製薬)、アモキサール

(エスエス製薬)、エビレマイド錠(小野薬品)、ゾルモックス(関東医師製薬)、ダイアモックス末、同錠、同S.R.、注射用ダイアモックス(日本レダリー)、ダイドック(沢井製薬)、ダイトムン錠(金星薬品)、ドンモックス(堀田薬品)

## ◇…消化器官用剤…◇

### 酸化マグネシウム

#### 効能・効果

下記疾患における制酸作用と症状の改善

胃・十二指腸潰瘍、胃炎（急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む）、上部消化管機能異常（神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む）

#### 便秘症

尿路尿酸カルシウム結石の発生予防

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・

効果：酸中毒・重金属中毒・砒素中毒の解毒作用

#### 用法・用量

制酸剤として使用する場合：

酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.5～1.0gを数回に分割経口投与する。

緩下剤として使用する場合：

酸化マグネシウムとして、通常成人1日2gを食前又は食後の3回に分割経口投与するか、又は就寝前に1回投与する。

尿路尿酸カルシウム結石の発生予防に使用する場合：

酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.2～0.6gを多量の水とともに経口投与する。

なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。

#### ◎使用上の注意

(1) 次の患者には慎重に投与すること

- 1) 腎障害のある患者
- 2) 心機能障害のある患者
- 3) 下痢のある患者
- 4) 高マグネシウム血症の患者

(2) 副作用

1) **代謝異常** 長期大量投与により高マグネシウム血症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休薬等の適切な処置を行うこと。

2) **消化器** ときに下痢等の症状があらわれることがある。

#### (3) 相互作用

1) テトラサイクリン系抗生物質の吸収を阻害することがあるので、同時に服用させないこと。

2) 本剤の吸着作用又は消化管内・体液のpH上昇により、併用薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがあるので、慎重に投与すること。

3) 大量の牛乳、カルシウム製剤との併用によりmilk-alkali syndrome（高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

#### 販売名（会社名）

キョーワマグL、同H（協和化学）、酸化マグネシウムKWP、重質酸化マグネシウムKWP（幸和薬品）、酸化マグネシウム「ヤマゼン」M、重質酸化マグネシウム「ヤマゼン」M（山善薬品）、酸化マグネシウム「ヨシダ」、重カマ「ヨシダ」（吉田製薬）、重質酸化マグネシウムシオエ（シオエ製薬）、重質酸化マグネシウム「マルコ」（マルコ薬品）、酸化マグネシウム、重質酸化マグネシウム（岩城製薬、オリエンタル、小堺製薬、三晃製薬、宮沢薬品、山田製薬）、重質酸化マグネシウム（健栄製薬、東海製薬、東洋製化、中北薬品、日興製薬、保栄薬工、菱山製薬、丸石製薬、三恵薬品）、重質酸化マグネシウム、同顆粒（神戸医協）、「純生」軽カマ、「純生」重カマ（純生薬品）

### 水酸化アルミニウムゲル

#### 効能・効果

下記疾患における制酸作用と症状の改善

胃・十二指腸潰瘍、胃炎（急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む）、上部消化管機能異常（神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む）

尿中磷排泄増加に伴う尿路結石の発生予防

#### 用法・用量

(乾燥水酸化アルミニウムゲル, 同細粒)

乾燥水酸化アルミニウムゲルとして, 通常成人1日1~3gを数回に分割経口投与する。

なお, 年齢, 症状により適宜増減する。

(水酸化アルミニウム・ゲル)

水酸化アルミニウム・ゲルとして, 通常成人1日10~30mlを数回に分割経口投与する。

なお, 年齢, 症状により適宜増減する。

#### ◎使用上の注意

##### (1) 次の患者には慎重に投与すること

リン酸塩の欠乏している患者

##### (2) 副作用

1) **消化器** ときに便秘, また, まれに悪心・嘔吐等の症状があらわれることがあるので, このような場合には減量, 休薬又は緩下剤の併用等の適切な処置を行うこと。

2) **長期投与** 長期投与(特に透析療法患者の場合)により精神症状, 骨軟化症が発現したとの報告があるので, 定期的に血中リン, アルカリフォスファターゼ等の測定を行うこと。

##### (3) 相互作用

1) テトラサイクリン系抗生物質の吸収を阻害することがあるので, 同時に服用させないこと。

2) 本剤の吸着作用又は消化管内・体液のpH上昇により, 併用薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがあるので, 慎重に投与すること。

#### 販売名(会社名)

アルミゲル細粒(中外製薬), 乾燥水酸化アルミニウムゲル, 同細粒(東洋製薬), 乾燥水酸化アルミニウムゲル, 同細粒「協和化学」, 同細粒M「協和化学」(協和化学), 乾燥水酸化アルミニウム・ゲル(日興製薬), 乾燥水酸化アルミニウム・ゲル「共立」, 同細粒「共立」(共立薬工), 乾燥水酸化アルミニウムゲル細粒(健栄製薬, 神戸医協, 三恵薬品, 中北薬品, 山田製薬)

乾燥水酸化アルミニウム・ゲル細粒(菱山製薬), ゲラルミン(大日本製薬), ゲルソゲン(昭和製薬), 「純生」アルミゲル(純生薬品工業), タカタゲル細粒(高田製薬), ドライ・ゲル, 同細粒(シオエ製薬), ヒドロゲル(岩城製薬), ホエミゲル(保栄薬工) マルイシアルミニウムゲル(丸石製薬), 「ヨシダ」ゲル, 同細粒(吉田製薬)

## 乾燥酵母

#### 効能・効果

ビタミンB群, たん白質の需要が増大し, 食事からの摂取が不十分な際の補給。

\*\*下記の適応については, 有効性は認められるが, 他に適切な薬剤があるので有用性は認められない。

ビタミンB群の不足及び欠乏症

#### 用法・用量

乾燥酵母として, 通常成人1日5~10gを3回に分割経口投与する。

なお, 年齢, 症状により適宜増減する。

#### 販売名(会社名)

乾燥酵母(オリエンタル薬品, 麒麟麦酒, 三恵薬品, 保栄薬工), 乾燥酵母エビオス(エビオス-田辺製薬), ビースト(岩城製薬), ビタソート(丸石製薬)

## アカメガシワエキス

#### 効能・効果

下記疾患時における便通異常の改善

過敏結腸症(イリタブルコロム)

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果: 胃酸過多症, 低酸症または無酸症における酸度正常化

#### 用法・用量

アカメガシワエキスとして, 通常成人1回0.27gを1日3回経口投与する。

なお, 年齢, 症状により適宜増減する。

#### ◎使用上の注意

##### (1) 次の患者には投与しないこと

- 1) 急性腹症が疑われる患者
- 2) 痙攣性便秘の患者
- 3) 重症の硬結便のある患者

##### (2) 副作用

**消化器** ときに悪心・嘔吐, 腹部膨満感, 腹痛等の症

状があらわれることがある。

### (3) 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

#### 販売名(会社名)

マロゲン錠(日本新薬)

### アルジオキサ

#### 効能・効果

下記疾患における自覚症状及び他覚所見の改善

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎

#### 用法・用量

アルジオキサとして、通常成人1日300~400mgを3~4回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

#### ◎使用上の注意

##### (1) 副作用

**消化器** ときに便秘等の症状があらわれることがある。

##### (2) 相互作用

テトラサイクリン系抗生物質の吸収を抑制することがあるので、これらの抗生物質との併用は避けること。

#### 販売名(会社名)

アスコンプ(日本ケミファ)、アラネトリン顆粒、同錠(高田製薬)、アランタ-SP、同-SF錠(キッセイ薬品)、アルサG、同錠(東和薬品)、アルジオキサ錠「イセイ」(イセイ)、アルラント顆粒(日医工)、イサロン顆粒、同錠(グレラン製薬)、エミン(長生堂製薬)、クロケール細粒、同錠(沢井製薬)、ニッシュェー(白井松新薬)、ペプチレート錠(同仁医薬)

### L-グルタミン

#### 効能・効果

下記疾患における自覚症状及び他覚所見の改善

胃潰瘍、十二指腸潰瘍

#### 用法・用量

L-グルタミンとして、通常成人1日1~2gを3~4回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

#### ◎使用上の注意

##### 副作用

1) **消化器** ときに口渇、悪心、便秘等の症状があらわれることがある。

2) **その他** ときに顔面紅潮があらわれることがある。

#### 販売名(会社名)

アミソルブ・LK顆粒<99>(藤木製薬)、エンロリン顆粒(東亜医薬品工業)、グルタミド顆粒、同錠(森下製薬)、グルタミンG(日本化薬)、L-グルタミン顆粒、同錠200(大興製薬)、グルタミン顆粒(三和化学、大鵬薬品)、L-グルタミン錠200(東亜薬品)、グルタミン顆粒「アメル」、同50%顆粒「アメル」、同錠「アメル」(共和薬工)、L-グルタミンB顆粒「エスエス」(エスエス製薬)、グルタミン顆粒「イワキ」(岩城製薬)、グルタミン顆粒「ウジ」(宇治製薬)、グルタミン顆粒「コトブキ」(寿製薬)、グルタミン顆粒「サワイ」(沢井製薬)、L-グルタミン顆粒「サンア」(三亜製薬)、グルタミン末「昭和」、同顆粒「昭和」(昭和薬品化工)、グルタミン顆粒「シンカ」(進化製薬)、グルタミン顆粒「第一」(第一製薬)、グルタミン顆粒「タカタ」(高田製薬)、L-グルタミン顆粒「タツミ」(辰巳化学)、L-グルタミン顆粒「トーワ」(東和薬品)、グルタミン顆粒「ナカノ」(大洋薬品)、グルタミン顆粒「日アル」(日本アルツ製薬)、L-グルタミン顆粒「ニッシン」(日新製薬一日新薬品・山形)、L-グルタミン顆粒(阪急)、同錠(阪急)(阪急共栄物産)、L-グルタミン顆粒「ヒシヤマ」(菱山製薬)、L-グルタミン顆粒「ホリイ」(堀井薬品)、L-グルタミン顆粒「ホリタ」(堀田薬品)、グルタミン顆粒「マルイン」(丸石製薬)、L-グルタミン顆粒「メタル」(中北薬品)、グルタミン顆粒「わかもと」(わかもと製薬)、グルタミン顆粒「モハン」(模範薬品)、グルタミン細粒明治、同錠明治(明薬)、グルサ

イン顆粒（関東医製），グルミンS，同顆粒（協和醗酵），ハチグルタン顆粒，同錠（東洋製化），ホッカルゲン顆粒（北陸製薬），マテルミン細粒，同錠（日本ユニバーサル薬品），ミオグルミン（長生堂製薬）

## ウロガストロン

### 効能・効果

下記疾患における自覚症状及び他覚所見の改善  
胃潰瘍，十二指腸潰瘍

### 用法・用量

ウロガストロンとして，通常成人1日7.2～9.6mg（力価）を3～4回に分割経口投与する．なお，年齢，症状により適宜増減する．

### ◎使用上の注意

#### 副作用

- 1) 消化器 ときに口渇，悪心，胃部不快感，下痢，便秘等の症状があらわれることがある．
- 2) その他 ときに痒痒感があらわれることがある．

#### 販売名（会社名）

ウガロンカプセル（日本新薬），ホモガロールカプセル（東菱薬品）

## 塩酸ヒスチジン

### 効能・効果

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果

下記疾患における諸症状の緩解

胃潰瘍，十二指腸潰瘍，空腸潰瘍，口腔潰瘍

## 銅クロロフィリンナトリウム

### 効能・効果

#### （経口）

下記疾患における自覚症状及び他覚所見の改善  
胃潰瘍，十二指腸潰瘍，胃炎

#### （皮膚）

下記疾患の治癒促進

外傷，熱傷，その他の疾患による潰瘍

#### （口腔）

慢性口腔潰瘍の治癒促進

口腔内疾患に伴う口臭の抑制

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果

#### （経口）

体臭の除去

下記の疾患に伴う消化管粘膜病変の治癒促進

潰瘍性大腸炎など

### 用法・用量

#### 〔末〕

#### （経口）

銅クロロフィリンナトリウムとして，通常成人1日90～400mgを3～4回に分割経口投与する．

なお，年齢，症状により適宜増減する．

#### （皮膚）

0.1～1.0%水溶液又は0.5～1.0%軟膏として，適量に患部に塗布又は貼付する．

#### （口腔）

0.05%水溶液として，含嗽する．

#### 〔散剤，錠剤〕

銅クロロフィリンナトリウムとして，通常成人1日90～400mgを3～4回に分割経口投与する．

なお，年齢，症状により適宜増減する．

### ◎使用上の注意

#### （経口）

#### （1）副作用

消化器 ときに軟便あるいは便秘傾向を呈することがある．

#### （2）臨床検査値への影響

便の着色のためベンゼン法による便潜血反応の判定が困難となることがある．（検査前少なくとも24時間投与中止することにより避けられる．）

#### （3）その他

便が濃緑色を呈したり、便臭が希薄になることがある。

(外用剤)

**副作用**

**過敏症** ときに掻痒感、灼熱感等を伴う皮膚の過敏症状があらわれることがある。

**販売名(会社名)**

ミドリゲン(粉末)(日清化学)

### ジメチルポリシロキサン

**効能・効果**

胃内視鏡検査時における胃内有泡性粘液の除去、胃腸管内のガスに起因する腹部症状の改善、腹部X線検査時における腸内ガスの駆除

**用法・用量**

胃腸管内のガスに起因する腹部症状の改善に使用する場合：

ジメチルポリシロキサンとして、通常成人1日120～240mgを食後又は食間の3回に分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

胃内視鏡検査時における胃内有泡性粘液の除去に使用する場合：

検査15～40分前にジメチルポリシロキサンとして、通常成人40～80mgを約10mlの水とともに経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

腹部X線検査時における腸内ガスの駆除に使用する場合：

検査3～4日前よりジメチルポリシロキサンとして、通常成人1日120～240mgを食後又は食間の3回に分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

◎使用上の注意

**副作用**

1) **消化器** ときに軟便、胃部不快感、下痢、腹痛、嘔吐、嘔気、胃部重圧感、食欲不振があらわれることがある。

2) **その他** まれに頭痛があらわれることがある。

**販売名(会社名)**

エアノン錠40(大興製薬)、エアフルコン、同顆粒(東洋製薬)、エアロパックス錠(ミドリ十字)、ガスエース錠40(関東医製)、ガスキノ錠(昭和新薬)、ガスコン散、同錠40mg、同ドロップ(キッセイ薬品)、ガスサー(東和薬品)、ガスシリコン錠・40(大正薬品)、ガスゼロンS(日医工)、ガステール(新扶桑製薬—扶桑薬工)、ガスナイン錠(星製薬)、ガナトン錠40mg(北陸製薬)、ゲルスミン散、同錠、同ドロップ(幸和薬品)、ジボリン錠(共和薬品)、シメチコン錠、同ドロップ(岩城製薬)、シリエス液、同顆粒、同錠(日本商事)、スパリリン(ゾル消泡液)、同錠(丸石製薬)、ナイスタール細粒、同錠、同錠(日本ユニバーサル薬品)、バブコン(東邦化学)、パリトゲン消泡剤(伏見製薬)、パロス消泡液(堀井薬品)、ハロップ(東洋ファルマー)、ポリキサン錠40「純薬」、同錠20「純薬」(東亜薬品)、ポリシロ(東亜医薬品—堀井薬品)、マガーテ(模範薬品)

### D-ソルビトール

**効能・効果**

消化管のX線造影の迅速化、経口的栄養補給、消化管のX線造影時の便秘の防止、

有効と判定する根拠がないものと判定された効能・効果：胆のう造影時の胆のう収縮

**用法・用量**

経口的栄養補給に使用する場合

必要量を粉末あるいは水溶液として経口投与する。

消化管のX線造影の迅速化及び消化管のX線造影時の便秘の防止に使用する場合

X線造影剤に添加して経口投与する。添加量はX線造影剤中の硫酸バリウム100gに対してD-ソルビトールとして10～20gとする。

◎使用上の注意

**副作用**

**消化器** 大量投与により腹痛、下痢、腹部膨満、放屁等の症状があらわれることがある。

**販売名(会社名)**

D-ソルビトール(鳥居薬品)、D-ソルビトール、同液(丸石製薬)、ソルビトールX液(日研化学)

◇…血液用剤…◇

フマル酸第一鉄・葉酸・シアノコバラミン配合剤

評価判定を行った処方

(1錠中)

フマル酸第一鉄 100mg

葉酸 2mg

シアノコバラミン 4μg

効能・効果

有効であるが、配合意義が認められないものと判定された効能・効果：鉄欠乏性貧血

フマル酸第一鉄・ジオクチルソジウムスルホサクシネート配合剤(2)

評価判定を行った処方

(1カプセル中)

フマル酸第一鉄 150mg

ジオクチルソジウムスルホサクシネート 100mg

効能・効果

有効であるが、配合意義が認められないものと判定された効能・効果：鉄欠乏性貧血

フマル酸第一鉄・ジオクチルソジウムスルホサクシネート配合剤(1)

評価判定を行った処方

(1錠中)

フマル酸第一鉄 75mg

ジオクチルソジウムスルホサクシネート 50mg

効能・効果

有効であるが、配合意義が認められないものと判定された効能・効果：鉄欠乏性貧血

販売名(会社名)

エフイーディー  
FeD錠(共和薬品)

フマル酸第一鉄・チアミンセチル硫酸塩・リボフラビン・ニコチン酸アミド・アスコルビン酸配合剤

評価判定を行った処方

(1錠中)

フマル酸第一鉄 75.00mg

チアミンセチル硫酸塩 2.75mg

リボフラビン 1.00mg

ニコチン酸アミド 3.00mg

アスコルビン酸 10.00mg

効能・効果

有効であるが、配合意義が認められないものと判定された効能・効果：鉄欠乏性貧血

◇…ビタミン等代謝性製剤…◇

ジヒドロタキステロール

**効能・効果**

術後・特発性及び偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD抵抗性クル病及び骨軟化症、透析療法を受けている慢性腎不全患者の低カルシウム血症

**用法・用量**

ジヒドロタキステロールとして、通常成人1日0.125～0.375mgを経口投与する。

なお、患者の血清・尿中カルシウム値及び血清リン値の厳重な管理のもとに、年齢、症状及び治療経過により、用量及び間隔を増減する。

**◎使用上の注意**

1. 一般的注意

過剰投与を防ぐため、本剤投与中、血清カルシウム値の定期的測定を行い、血清カルシウム値が正常値を越えないよう投与量を調整すること。

2. 副作用

1) 過剰投与 次のような症状があらわれることがあるので投与量や投与期間に十分注意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。

なお、そのような症状があらわれた場合、血清カルシウム値を再測定することが望ましい。

**胃腸** 食欲不振、悪心・嘔吐、下痢

**腎臓** 腎機能障害、腎結石、腎疝痛、多尿、蛋白尿、石灰沈着

**精神神経系** 頭痛、口渇、めまい、耳鳴、昏迷、煩渴多飲、腹部痙攣

**筋肉** 筋肉痛、下肢の運動失調

**皮膚** 皮膚石灰化、発疹

**骨** 関節石灰化

**循環器** 血管石灰沈着

**血液** 貧血

**その他** 全身倦怠

2) 過敏症 発疹等の過敏症状があらわれた場合には投与を中止すること。

3. 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

4. その他

高リン血症のある患者に投与する場合はリン酸結合剤（水酸化アルミニウムゲル等）を併用し、血清リン値を下げること。

**販売名（会社名）**

ハイテイクロールカプセル（ウインスロップ一鳥居薬品）

◇……正誤等のご連絡……◇

先に作成し、お届け致しました医療用医薬品再評価ご案内<No. 18>につきまして一部に誤り等  
がありましたので、お詫び申し上げますと共に正誤等について次のようにご連絡申し上げます。

頁	左右	行	誤	正
37	左	上13	使用上の注意	◎使用上の注意
52	左	上7	呼吸促進	呼吸促進
11	左	上19	(4) 妊産婦・授乳婦への投与	(4) 妊婦・授乳婦への投与
55	右	上 <sup>24</sup> 25	2) 高血圧のある患者 3) 心疾患のある患者	2) 心疾患のある患者 3) 高血圧のある患者
61	左	上18	過敏症	過敏症状
78	左	下15	<u>次没食子酸ピスマス</u> 販売名(会社名)のうち	丸石製薬削除

## 本文掲載以外の該当品目

以下の品目は、本文記載の成分と夫々同一の評価を受けましたが、現に販売していないもの及び掲載の希望がなかったものについては、本文での掲載は省略してあります。もしお手持の在庫品がございましたら、該当成分欄の評価結果をご参考として下さい。

### 放射性医薬品

#### ヨウ化ナトリウム (<sup>131</sup>I) (診断用)

ヨウ化ナトリウム (<sup>131</sup>I)カプセル『科研』(科研化学)

#### ヨウ化ヒプル酸ナトリウム (<sup>125</sup>I)

ヒプルサン-131注 (ヘキストジャパン)

#### 金コロイド (<sup>198</sup>Au) (診断用)

ゴールド50A (ヘキストジャパン)

### X線造影剤

#### イオフェンジラート マイオジール (新日本実業)

#### プロピリオドン ディオノジール油性(日本グラクソ)

硫酸バリウム バリケートM (大塚製薬工場), バリウム・ゾル「ホエイ」100A, 同100B, 同75A, 同75B (保栄薬工), ベストバルF, 同G, 同R, 同S, 同X (ベストバル), 流動エックスゾル・A, 同B, 流動X-SOL<sup>エックス</sup>コングA, 同B, 流動X<sup>ビー</sup>ゾル・120, 同140 (生見栄養), 硫酸バリウム, ベストバリット (ビオフェルミン), ミカバリウム, 同B, 同F, ミカレリーフ, ミカコング, 同100%, 同90%, 同80%, 硫酸バリウム (ミカリミテット)

### 外用剤

カンフル カンフル精 (カネイチ), d-カンフル「ヤマゼン」, dl-カンフル「ヤマゼン」(山善薬品), カンフル軟膏 (丸石製薬), dl-カンフル (菱山製薬), ケンエー樟脳チンキ (健栄製薬), カンフルワセリン (佐藤製薬), dl-カンフル, エビスカンフル精 (エビス製薬), 大矢カンフル精 (大矢薬品), dl-カンフル (丸石製薬所)

イクタモール イクタモール (エビス製薬, 東海製薬, 丸石製薬所), イクタモール坐剤 (桑根製薬), イクタモール「ミワ」(三輪薬品), イクタモール軟膏「マルホ」(マルホ)

カンタリス カンタリスチンキ (東海製薬), カンタリスチンキ「ホエイ」(保栄薬工), カンタリスチンキ, 同軟膏 (大日本製薬), カンタリスチンキ「マルイシ」(丸石製薬)

トウガラシチンキ トウガラシチンキ (エビス製薬, 健栄製薬, 大日本製薬, 月島薬品), トウガラシエキス (丸石製薬)

サリチル酸メチル サリチル酸メチル (東京田辺, 菱山製薬), サリチル酸メチル「ARA」(荒川合名), サリチル酸メチル「ヤマゼン」(山善薬品)

### 循環器官用剤

カフェイン カフェイン (扶桑薬工, 中央化学, 月島薬品, 鳥居薬品), 無水カフェイン (エビス製薬, 菱山製薬, 丸石製薬), カフェイン, 無水カフェイン (静岡カフェイン工業所), カフェイン「ARA」(荒川合名), カフェイン「ミワ」(三輪薬品)

安息香酸ナトリウムカフェイン 安息香酸ナトリウムカフェイン (エビス製薬, 静岡カフェイン工業所, 高田製薬, 中央化学, 月島薬品, 鳥居薬品), 安息香酸ナトリウムカフェイン注射液 (小林製薬, 大鵬薬品, 大洋薬品, 大和化成工業, 日医工, マルコ製薬), 安息香酸ナトリウムカフェイン, 同注射液 (イセイ, 共立薬工, 東京田辺, 模範薬品, 菱山製薬), 安息香酸ナトリウム「ミワ」(三輪薬品), 10%安息香酸ナトリウムカフェイン注射液「ARA」, 20%安息香酸ナトリウムカフェイン注射液「ARA」(荒川合名), 安息香酸ナトリウムカフェイン, アンナカ注射液 (武田薬品), 10%ネフリジン注, 20%ネフリジン注 (藤永製薬), アンナカ注TS (帝三製薬), アンナカ (日新製薬)

アセタゾラミド アイロバン (森下製薬), アセゾール錠 (参天製薬), アセゾラミン錠 (わかもと), アセタゾラミド, ゴールドモックス錠 (日医工), アセタゾラミド錠「イセイ」(イセイ), アセタゾールアミド錠「ナカノ」(大洋薬品), アセタゾールアミド錠TS (帝三製薬), アセタゾールアミド錠「ドーシン」(同仁医薬), アセタミドール錠 (菱山製薬), アテネゾール (鶴原製薬), アテリナ (北陸製薬), アゾミド錠 (小林化工), アミドモックス (明治薬品), アムイサン-A (竹島製薬), ウロダイヤ錠 (東宝薬工), セタミッド錠 (ゼリア新薬), ソルアミド (昭和新薬), 注射用ダイアモックス (武田薬品), ダンノール錠 (三和化学研), ベタウレール (生見栄養), アセタモックスカプセル, 同カプセル500, 同注 (東菱薬品), ダイアモックスタブレット (日本レダリー)

### 消化器官用剤

酸化マグネシウム 酸化マグネシウム (イセイ, 健栄製薬, 月島薬品, 菱山製薬, 丸石製薬, 丸石製薬所), 重質酸化マグネシウム (昭和新薬), 酸化マグネシウム,

重質酸化マグネシウム (エビス製薬, 高田製薬, 富田製薬), 酸化マグネシウム, 重質酸化マグネシウム「コーサー」(愛知厚生連), 重質酸化マグネシウム「オーヤ」, 軽質酸化マグネシウム「オーヤ」(大矢薬品), 酸化マグネシウム「ミワ」, 重質酸化マグネシウム「ミワ」(三輪薬品), 酸化マグネシウムN (日本有機), 酸化マグネシウムソオエ (シオエ製薬)

**水酸化アルミニウムゲル** 乾燥水酸化アルミニウムゲル (三晃製薬, 中央化学, 健栄製薬, 菱山製薬), 水酸化アルミニウム・ゲル (大日本製薬), 水酸化アルミニウムゲル, 乾燥水酸化アルミニウムゲル (日医工), 乾燥水酸化アルミニウム・ゲル細粒 (三和化学), 乾燥水酸化アルミニウムゲル顆粒 (小玉), 水酸化アルミニウム・ゲル, 乾燥水酸化アルミニウム・ゲル, 同細粒「コーサー」(愛知厚生連), 乾燥水酸化アルミニウムゲル, 同細粒(富田製薬), 乾燥水酸化アルミニウム・ゲル「ミワ」, 同細粒「ミワ」(三輪薬品), 乾燥水酸化アルミニウム・ゲル, 同顆粒 (大鵬薬品), 水酸化アルミニウムゲル, 乾燥水酸化アルミニウムゲル, 同細粒 (住友化学), 乾燥水酸化アルミニウムゲル「ヤマゼン」M, 同細粒「ヤマゼン」M (山善薬品), アルミゲル (中外製薬)

**乾燥酵母** 乾燥酵母 (愛知厚生連, 健栄製薬, 菱山製薬), 乾燥酵母「三共ゾーキ」(三共ゾーキ), 「純生」乾燥酵母 (純生薬品), 薬用乾燥酵母「タカラ」(宝酒造), 乾燥酵母「ミワ」(三輪薬品), 乾燥酵母「ヤマゼン」(山善薬品)

**アカメガシワエキス** マイマロン (前田薬工), ニチマロン錠 (日医工)

**アルジオキサ** フランターSG, 同S錠 (キッセイ薬品), アルキサ錠, 同顆粒 (小林化工), リタラント錠 (堀田薬品)

**L-グルタミン** アミソルブ・LK顆粒<40>, 同錠<200>(藤本製薬), グルタミン錠「山川」(日本化薬), グルタミン錠, 同細粒 (大鵬薬品), L-グルタミン錠「エスエス」, 同A顆粒「エスエス」(エスエス製薬), グルタミン顆粒「イワキ」(分包)(岩城製薬), グルタミン錠「サワイ」(沢井製薬), グルタミンS「第一」(第一製薬), グルタミン顆粒「タツミ」, 同錠「タツミ」(辰巳化学), グルタミン錠「ナカノ」(大洋薬品), L-グルタ

ミン錠「ヒシヤマ」(菱山製薬), L-グルタミン「わかもと」(わかもと製薬), グルタミン錠「モハン」(模範薬品), グルサイン顆粒50%, 同錠 (関東医師製薬), グルミン錠 (協和醗酵), ホッカルクス錠 (北陸製薬), エルジー顆粒「サトウ」, エルジー「サトウ」(佐藤薬工), L・G・M顆粒「ドージン」(同仁医薬), グルタミン顆粒「アマノ」(天野製薬), グルタミン錠「ARA」, 同細粒「ARA」(荒川合名), グルタミン散「イセイ」, 同顆粒「イセイ」, 同錠「イセイ」, L-グルタミン「イセイ」(イセイ), グルタミン錠「キッセイ」, 同顆粒「キッセイ」(キッセイ薬品), L-グルタミン末「共立」, 同顆粒「共立」, 同錠「共立」(共立薬工), L-グルタミン顆粒「コダマ」(小玉), L-グルタミン錠「三晃」, 同顆粒「三晃」(三晃製薬), グルタミン顆粒, 同錠 (昭和新薬), グルタミン顆粒「フソウ」(新扶桑製薬), L-グルタミン錠 (大正薬品), グルタミン顆粒TS, 同錠TS (帝三製薬), グルタミン錠「コタニ」, 同顆粒「コタニ」(日清製薬), L-グルタミン「日医工」(日本医薬品工業), グルタミン顆粒「ケミファ」(日本ケミファ), L-グルタミンG「ホエイ」(保栄薬工), グルタミン散「マルコ」, 同顆粒「マルコ」, 同錠「マルコ」(マルコ製薬), グルマック (白井松新薬), グルミロン錠, 同A顆粒 (太田製薬), エルタミン錠 (日本榮研), L-グルタミン「トービタ」(トービタ製薬一葵)

**銅クロロフィリンナトリウム** サクロフィール原末, サクロフィール末 (エーザイ), チェリマン錠「モハン」(模範)

**ジメチルポリシロキサン** ガスエース散, ガスエース錠20 (関東医師), ガスシリコン錠 (大正薬品), ガスゼロン散, 同顆粒, 同錠, 同シロップ (日本医薬品工業), ガナトン錠20mg, 同散, 同シロップ (北陸製薬), シリメサンS (日本商事), ガスパノン (日清製薬), オリコンG, 同錠, 同40(同仁医薬化工), ゴスペールB (竹島製薬), シメチコン「モチダ」(持田製薬), ガスパルテン錠 (日新製薬), ジボキサラン錠 (生晃栄養), ソプラフィン (新進), ガスレス顆粒, 同錠, 同錠40 (菱山製薬), ガスチオール錠40mg「ユニバーサル」(ユニバーサル製薬)

**D-ソルビトール** D-ソルビトール, 同液, ソルビトールX末 (日研化学)

再評価の結果有用性を示す根拠がないものと判定された成分名・処方名・販売名（会社名）

もし、下記の製品について在庫品がございましたら、お取引先を通じてお申し出下さい、お引取り致します。

**外皮用剤**

イクタモール イクタモール坐剤（桑根製薬）

**消化器官用剤**

塩酸ヒスチジン 塩酸ヒスチジン注「マルコ」（マルコ製薬）、同「昭和」（昭和薬品）、同「共立」（共立薬品）、ヒスチジン注「大塚」（大塚製薬）、塩酸ヒスチジン注射液（東京宝生）、キャノール注射液（扶桑薬品）、イスウリーゼ注（帝三製薬）、アンチウルクス（杏林薬品）、アルサワ注（日医工）、イス・ウルクス注射液（大日本製薬）、デルクス注（日本臓器）、イミダゾオン（日

新製薬）、ホッカルクス（北陸製薬）、ネオウルクゾール「イセイ」（イセイ）、アミノウルクス（アミノン製薬）、イスウリン注「ヤシマ」（ヤシマ化学）

**血液用剤**

フマル酸第一鉄・葉酸・シアノコバラミン配合剤

インクリーズ（生見栄養）、ヘマレット（小林化工）、マステゲン B<sub>12</sub>錠（日本臓器製薬）

フマル酸第一鉄・ジオクチルソジウムスルホサクシネート配合剤（1）

<sup>エフイーデー</sup> Fe D錠（共和薬品工業）

フマル酸第一鉄・ジオクチルソジウムスルホサクシネート配合剤（2） レダフェロン（日本レダリー）

フマル酸第一鉄・チアミンセチル硫酸塩・リボフラビン・ニコチン酸アミド・アスコルビン酸配合剤 チョコラB鉄フマロン（エーザイ）

## 再 評 価 結 果

公 示	答 申 年 月 日
第 1 次	昭和48年11月21日
第 2 次	昭和49年 7月29日
第 3 次	昭和49年11月20日
第 4 次	昭和50年 3月 5日
第 5 次	昭和50年 6月26日
第 6 次	昭和50年10月17日
第 7 次	昭和50年12月26日
第 8 次	昭和51年 4月28日
第 9 次	昭和51年 7月23日
第10次	昭和51年10月28日
第11次	昭和52年 5月11日
第12次	昭和52年 7月 6日
第13次	昭和52年10月28日
第14次	昭和53年 3月24日
第15次	昭和54年 2月 2日
第16次	昭和54年 7月16日
第16次の2	昭和55年 3月22日
第17次	昭和55年 8月14日
第18次	昭和56年 8月 7日
第19次	昭和57年 1月 8日

## 薬効群別公示一覧表

### 薬効群

### 公示

#### 精神神経用剤

(その1)	(マイレン酸アセチルプロマジン 他15成分) ……………	第1次
(その2)	(オキサゼパム 他3成分) ……………	第2次
(その3)	(塩酸アミトリプチリン 他8成分) ……………	第3次
(その4)	(アセチルフェネトライド 他12成分) ……………	第5次
(その5)	(アモバルビタール及びその塩類 他6成分) ……………	第7次
(その6)	(臭化ナトリウム 他11成分) ……………	第9次
(その7)	(トリフルベリドール 他5成分) ……………	第12次
(その8)	(塩酸トリヘキシフェニジル 他11成分) ……………	第13次
(その9)	(塩酸クロルプロマジン・塩酸プロメタジン配合剤(1)他1処方) ……	第14次
(その10)	(塩酸メチルフェニデート 他1成分) ……………	第15次
(その11)	(フェニトイン・メフォバルビタール配合剤 他6処方) ……………	第16次
(その12)	(シチコリン 他3成分) ……………	第17次

#### 抗菌製剤

(その1)	(フェノキシメチルペニシリン及びその塩類 他15成分) ……………	第1次
(その2)	(クロラムフェニコール 他19成分) ……………	第7次
(その3)	(テトラサイクリン及びその塩類 他10成分) ……………	第8次
(その4)	(硫酸コリスチン 他8成分) ……………	第10次
(その5)	(スルフアジアジン 他15成分) ……………	第11次
(その6)	(アセチルフラトリジン 他5成分) ……………	第12次
(その7)	(ベンジルペニシリンベンザチン・ベンジルペニシリン プロカイン配合剤 他7処方) ……………	第18次

#### ビタミン等代謝性製剤

(その1)	(チアミンの塩類 他12成分) ……………	第2次
(その2)	(ビタミンA 他11成分) ……………	第6次
(その3)	(リボフラビン 他9成分) ……………	第8次
(その4)	(アスコルビン酸 他8成分) ……………	第11次
(その5)	(ジヒドロタキステロール) ……………	第19次

## 鎮痛剤

(その1)	(アスピリン 他7成分) ……………	第2次
(その2)	(コルヒチン 他2成分) ……………	第5次
(その3)	(アセトアミノフェン 他7成分) ……………	第6次
(その4)	(クエン酸エトヘプタジン 他6成分) ……………	第10次
(その5)	(セイヨウトチノキ種子エキス 他1成分) ……………	第17次
	(酒石酸エルゴタミン・無水カフェイン配合剤(1) 他2処方) ……………	第17次

## クロロキン製剤

(オロチン酸クロロキン 他3成分) ……………	第9次
-------------------------	-----

## 金製剤

(金チオリンゴ酸ナトリウム 他1成分) ……………	第9次
---------------------------	-----

## 循環器官用剤

(その1)	(ジギタリス 他9成分) ……………	第2次
(その2)	(ニケタミド 他12成分) ……………	第4次
(その3)	(硫酸キニジン 他5成分) ……………	第6次
(その4)	(キネサゾン 他11成分) ……………	第7次
(その5)	(クロフェナミド 他7成分) ……………	第11次
(その6)	(塩酸ヒドララジン 他13成分) ……………	第12次
(その7)	(亜硝酸アミル 他17成分) ……………	第14次
(その8)	(塩酸エチレフリン 他7成分) ……………	第15次
(その9)	(イノシトールヘキサニコチネート 他11成分) ……………	第17次
	(トリアムテレン・クロフェナミド配合剤(1) 他15処方) ……………	第17次
(その10)	(硫酸ホルシブレナリン 他1成分) ……………	第18次
	(リノール酸エチル・塩酸ピリドキシン・硫酸トコフェロール 配合剤 他7処方) ……………	第18次
(その11)	(カフェイン 他2成分) ……………	第19次

## 麻酔剤

(その1)	(亜酸化窒素 他17成分) ……………	第3次
(その2)	(塩酸オキシプロカイン 他5成分) ……………	第13次
(その3)	(塩酸メピバカイン・エピネフリン配合剤(1) 他10処方) ……………	第14次

## 筋弛緩剤

- (その1) (塩化スキサメトニウム 他3成分) ……第4次  
(その2) (メフェネシン 他6成分) ……第9次

## ホルモン剤

- (その1) (安息香酸エストラジオール 他14成分) ……第4次  
(その2) (プロゲステロン 他9成分) ……第5次  
(その3) (テストステロン 他6成分) ……第6次  
(その4) (メスタノロン 他16成分) ……第9次  
(その5) (チトロフィン 他12成分) ……第14次  
(酢酸ノルエチステロン・エチニルエストラジオール配合剤  
他12処方) ……第14次  
(その6) (血清性性腺刺激ホルモン) ……第16次  
(テストステロン・エストラジオール配合剤 他6処方) ……第16次  
(その7) (ヨードカゼイン) ……第17次

## 呼吸器官用剤

- (その1) (イソプロテレノールの塩類 他8成分) ……第5次  
(その2) (アセチルシステイン 他3成分) ……第7次  
(その3) (ノスカピン及びその塩類 他14成分) ……第10次  
(その4) (キョウニン水 他4成分) ……第18次  
(dl-塩酸メチルエフェドリン・マレイン酸クロルフェニラミン  
配合剤 他19処方) ……第18次

## 抗結核剤

- (アルミノパラアミノサリチル酸カルシウム 他11成分) ……第6次

## アレルギー用剤

- (その1) (塩酸ジフェンヒドラミン 他13成分) ……第6次  
(その2) (酒石酸アリメマジン 他11成分) ……第7次

## 肝臓障害用剤

- (その1) (エデト酸二ナトリウムカルシウム 他5成分) ……第7次  
(その2) (塩化ホスホリルコリン 他5成分) ……第16次

## 消化器官用剤

- (その1) (臭化メチルペナクチジウム 他13成分) ……第8次

(その2)	(塩酸ジサイクロミン 他9成分) ……………	第9次
(その3)	(オキセサゼイン 他2成分) ……………	第15次
(その4)	(硫酸アトロピン 他20成分) ……………	第16次
(その4)	(塩酸パバペリン他 12成分) ……………	第16次の2
(その5)	(タンニン酸アルブミン 他22成分) ……………	第18次
(その6)	(酸化マグネシウム 他10成分) ……………	第19次

**泌尿生殖器官用剤**

(その1)	(オキシトシン 他7成分) ……………	第9次
(その2)	(アクリフラビン 他8成分) ……………	第10次

**鎮暈剤**

(シメンヒドリナート 他3成分) ……………	第10次
------------------------	------

**酵素製剤**

(塩化リゾチーム 他4成分) ……………	第11次
----------------------	------

**眼科耳鼻科用剤**

(その1)	(硫酸アトロピン 他24成分) ……………	第12次
(その2)	(酢酸コルチゾン 他19成分) ……………	第13次
(その3)	(シアノコバラミン 他5成分) ……………	第15次
(その4)	(硫酸フラジオマイシン・リン酸ベタメタゾンナトリウム 配合剤(1) 他8処方) ……………	第17次
(その5)	(塩酸トラマゾリン 他1成分) ……………	第18次
	(塩酸テトラヒドロゾリン・プレドニゾン配合剤 他6処方) ……	第18次

**外皮用剤**

(その1)	(塩酸イソチベンジル 他25成分) ……………	第12次
(その2)	(スルフアジアジン 他29成分) ……………	第13次
(その3)	(イオウ 他18成分) ……………	第15次
(その4)	(脱脂大豆乾留タール 他1成分) ……………	第17次
	(塩酸グラミジジン S・硫酸ストレプトマイシン配合剤 他27処方) ……………	第17次
(その5)	(カンフル 他4成分) ……………	第19次

**消炎鎮痛剤**

(インドメタシン 他9成分) ……………	第12次
----------------------	------

## 血液用剤

- (その1) (イブシロンアミノカプロン酸 他6成分) ……第13次
- (その2) (カルバツクロム 他3成分) ……第15次
- (その3) (ヘパリンナトリウム 他14成分) ……第17次
- (その4) (フマル酸第一鉄・葉酸・シアノコバラミン配合剤 他3  
処方) ……第19次

## 体液用剤

- (その1) (ブドウ糖 他13成分) ……第13次
- (その2) (リンゲル液 他32処方) ……第14次
- (その3) (総合アミノ酸製剤(1) 他26処方) ……第15次
- (その4) (脳圧降下剤 他14処方) ……第16次

## 糖尿病用剤

- (その1) (塩酸フェンホルミン) ……第13次
- (その2) (塩酸メトホルミン 他16成分) ……第14次

## 歯科口腔用剤

- (その1) (クロラムフェニコール 他7成分) ……第16次
- (その2) (フェノール 他15成分) ……第17次

## 痔疾用剤

- (その1) (大腸菌死菌浮遊液) ……第18次
- (ロートエキス・タンニン酸配合剤 他8処方) ……第18次

## 放射性医薬品

- (その1) (ヨウ化ナトリウム (<sup>131</sup>I) (診断用) 他5成分) ……第19次

## X線造影剤

- (その1) (アミドトリゾ酸メグルミン他11成分) ……第19次
- (ヨードミド・メグルミン・水酸化ナトリウム配合剤
- (ヨードミドナトリウムメグルミン注射液) 他15処方) ……第19次